

平成 24 年度
神奈川県立体育センター研究報告書

「単元計画の構造図作成ツール」の活用を踏まえた改善

神奈川県立体育センター
事業部指導研究課 研修指導班

目 次

| | |
|--------------------|----|
| 【テーマ設定の理由】 | 1 |
| 【目的】 | 2 |
| 【文献研究】 | 2 |
| 1 単元構造図の有効性及び活用状況 | 2 |
| 2 単元デザイン力の構成要素 | 3 |
| 【内容及び方法】 | 3 |
| 1 研究の期間 | 3 |
| 2 研究の内容 | 3 |
| 3 研究の方法 | 3 |
| 【経過（結果と考察）】 | 4 |
| 1 検討会（5月2日） | 4 |
| 2 高校初任研1日目（5月10日） | 4 |
| 3 中学10年研（8月2日） | 5 |
| 4 県中体連学習会（10月2日） | 6 |
| 5 高校初任研4日目（10月18日） | 6 |
| 6 検討会（12月4日、1月24日） | 7 |
| 【考察】 | 10 |
| 【まとめ】 | 10 |
| 1 ツール活用による効果 | 10 |
| 2 ツールの改善 | 11 |
| 【課題】 | 12 |
| 【今後の展望】 | 12 |
| 【引用・参考】 | 12 |

資料

| NO. | タイトル | NO. | タイトル |
|-----|---------------------------|------|--------------------------|
| 1 | 新学習指導要領に対応した単元計画の構造図のサンプル | 10-1 | 県中体連学習会で活用したツール(フォーマット) |
| 2 | 平成23年度版ツール(フォーマット) | 10-2 | 県中体連学習会で活用したツール(補助資料) |
| 3 | 高校初任研1日目で活用したツール(フォーマット) | 10-3 | 県中体連学習会で活用したツール(サンプル) |
| 4 | 高校初任研1日目 アンケート | 10-4 | 県中体連学習会で活用したツール(下書き用) |
| 5 | 高校初任研1日目 アンケート調査の結果 | 10-5 | 県中体連学習会で活用したツール(手順書) |
| 6 | 平成23年度版ツール(フォーマット) | 11 | 県中体連学習会 アンケート |
| 7-1 | 中学10年研で活用したツール(フォーマット) | 12 | 県中体連学習会 アンケート調査の結果 |
| 7-2 | 中学10年研で活用したツール(サンプル) | 13-1 | 高校初任研4日目で活用したツール(フォーマット) |
| 7-3 | 中学10年研で活用したツール(手順書) | 13-2 | 高校初任研4日目で活用したツール(サンプル) |
| 8 | 中学10年研 アンケート | 13-3 | 高校初任研4日目で活用したツール(手順書) |
| 9 | 中学10年研 アンケート調査の結果 | 14 | 高校初任研4日目 アンケート |
| | | 15 | 高校初任研4日目 アンケート調査の結果 |

「単元計画の構造図作成ツール」の活用を踏まえた改善

研修指導班 田所克哉 小川雅嗣 佐藤康二
幸田 隆 中村直子 富澤桂子
研究アドバイザー 鹿屋体育大学 佐藤 豊

【テーマ設定の理由】

日本の初等中等教育においては、学習指導要領が指導の基準として示されており、学習者に対して学習指導要領の趣旨を踏まえたより良い授業の提供が求められている。

平成 10 年の学習指導要領改訂以降、目標に準拠した評価を行うとともに、指導と評価の一体化の取り組みが推進されており、単元計画(指導と評価の計画)、具体の指導内容、指導方法、学習評価を一連の授業サイクルの中でとらえ、自らの授業改善に役立てていくことが、教師に求められている。また、当センターにおいても、このことを念頭に置き、研修講座を開催してきた。

とはいえ、学校現場においては、指導の基準となる学習指導要領の把握が不十分のまま、単元を構想し、授業を展開してしまうこともあると思われる。もちろん学校現場は多忙であり、単元の構想に十分な時間がとれないという現状もあるが、授業づくりにおいて法的拘束力を持つ学習指導要領の把握の仕方(踏まえ方)を教員が十分に理解していないことも課題であると考えられる。

そのような課題に対し佐藤は、学習指導要領及び同解説をもとにした単元計画のラフスケッチが、有効であり、またそれは、学習評価の推進によって、1 時間の指導内容の精査にとらわれがちになっていた授業づくりに対して、授業づくりの重要な単元全体を見渡す視点(鳥瞰力)を与えることができる¹⁾と述べている。

当センターにおいても、佐藤の考案した単元計画の構造図の作成(以下、単元構造図 資料1)が、学習指導要領を踏まえた単元構想に役立つと考え、平成 21 年度より研修講座で単元構造図を活用してきた。そして活用を通して、「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」にある、『効果的・効率的な学習評価』²⁾を考える研修教材としての価値を実感することもできた。

しかしながら、単元構造図を作成するには、多くの時間を要したり、作業が繁雑であったりといった課題があることから、平成 23 年度に、単元構造図の作成過程を簡易化した中学校用「簡易版単元構造図作成ツール(以下「ツール」※と言う)」を試作し、平成 24 年度から、研修講座で活用することとした。

そこで本研究では、平成 24 年度の研修講座でツールを活用した受講者の生の声をもとに、ツール活用によって期待できる効果をより明確にし、ツールを改善すれば、今後の当センターの研修講座の充実や、学校現場での体育学習の授業改善に寄与できると考え、本テーマを設定した。

※ ツールは、平成 23 年度は図 1 のフォーマットのみであったが、平成 24 年度途中から、これに「サンプル」と「作成手順書」を加えたものとした。

ツール(フォーマット)は、以下の 4 つのゾーンで構成されている。

- A ゾーン：学習指導要領及び解説に記載されている内容を把握(転記)し、教えるべき内容を整理するゾーン
- B 1 ゾーン：指導内容をキーワードでとらえ、授業時間に配列したり関係付けを行うとともに、その指導内容が身に付いたかどうかを評価する授業時間の構想も行うゾーン
- B 2 ゾーン：学習過程を組み立てるゾーン
- C ゾーン：指導内容に応じた評価内容を確認し、評価する授業時間を確定するゾーン

当センターで試作したツールのフォーマットには、学習指導要領及び解説に記載されている内容が予め A ゾーンに、また、その指導内容と一体となった評価規準例が予め C ゾーンに、記載されている。そのため、受講者は、研修講座においては、B 1・B 2 ゾーンの作成と、C ゾーンの評価時間の確定を行う。

また、パソコン（マイクロソフトエクセル 2003）での作業と、印刷した紙の上での手作業による活用方法がある。

単元名 球技 ネット型 バレーボール ※第1学年及び第2学年では、ラリーを続けることを重視して、ボールや用具の操作と定位位置に戻るなどの動きなどによる新たな場所を定める技能を展開できるようにする。（体験） ※「話し合いによって、自分の意見を述べる」などの責任・参画の態度も身に付けます。（態度）

中学校第1学年及び第2学年

授業者

このセルにカーソルを合わせると説明文を見ることが出来ます。

※1 本時の学習の指導内容にあたります。
※2 本時案の展開の部分に記載します。

準備運動 ストレッチ 本時の内容の確認
ドリルゲーム 課題別練習
ゲーム タスクゲーム ゲーム 個別リーク

※「球技の特性」や「球技の成り立ち」も扱います！（知識）
※運動の行い方のポイントや自分やチームの課題を見つけられるようになります！（反省・判断）

| 単元名 | 単元内容 | 単元目標 | 単元内容 | | | | | | | | | | 単元評価 | | | |
|----------|--|--|------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|------|--|--|--|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | | | | |
| 技能 | (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるよになる。イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位位置になるなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。 | 【相手側のコートに空いた場所にボールを返す】 【味方が操作しやすい位置にボールをつなぐ】 【肩より高い位置からボールを打ち込む】 【相手の打撃に備えた準備姿勢をとる】 【プレイを開始するときは、各ポジションごとの定位位置に戻る】 【ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手と向きを変える】 | サービス | | | | | | | | | | | | | |
| | | | スライク | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 準備姿勢 | | | | | | | | | | | | | |
| 態度 | (2) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとする。分組した役割を果たすこと、仲間などについての話し合いに参加しようとする。健康・安全に気を配ることができるようになる。 | 【フェアなプレイを守ろうとする】 【分組した役割を果たそうとする】 【仲間と話し合いに参加しようとする】 【健康・安全に気を配る】 | 積極的に関わり合う | | | | | | | | | | | | | |
| | | | フェアプレイを守る | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 分組した役割を果たす | | | | | | | | | | | | | |
| 知識・思考・判断 | (3) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるよになる。 | 【球技の特性や成り立ち】 【技術の名称や行い方】 【関連して高まる体力】 【～などの例、試合の行い方】 【技術を身に付けるための運動の行い方を見付ける】 【自己やチームの課題を見付ける】 【課題に応じた練習方法を選択】 【役割に応じた協力の方法を見付ける】 【安全上の留意点を練習場面や試合場面に当てはめる】 | ボールや相手への正対 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 試合に参加する | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 仲間の学習を援助する | | | | | | | | | | | | | |

図1 ツール（フォーマット）の4つのゾーン

【目的】

研修講座での活用を通して、ツール活用による効果をより明確にし、研修において有効活用できるようにツールを改善する。

【文献研究】

1 単元構造図の有効性及び活用状況

中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領（中学：平成20年3月告示、高校：平成21年3月告示、以下「学習指導要領」と言う）には、運動に関する領域が7つの領域で示されており、それまでの学習指導要領に比べて、指導内容がより具体的に示された。また学習指導要領解説保健体育編（中学校は平成20年9月、高等学校は平成21年12月、以下「解説」と言う）には、指導内容（技能及び思考・判断）の例示も記載されており、これまでの解説よりも、指導内容を設定しやすい構成となっている。

しかしながら、学習指導要領及び解説は、指導の基準を示すものであり、地域や学習者の実態に応じた具体的な指導内容については、各学校で検討し具体化することが求められている。つまり、学校現場では、基準を踏まえながら、具体的な指導内容を考える作業が必要となってくる。日野は、平成24年3月10日に鹿屋体育大学で開催された「保健体育授業づくりシンポジウム」の中で、「単元構造図を作成して、指導内容を見える形にすること（指導内容の可視化）が大事ではないかと思っています。」と述べており、作成段階で指導内容が具体的に見えてくる、佐藤の考案し

た単元構造図の有効性を述べている。³⁾

実際、佐藤の考案した単元構造図は、国立教育政策研究所指定校事業を通して開発され、文部科学省子どもの体力向上指導者養成研修の指導者用資料としての作成・活用をきっかけに、鹿屋体育大学の他、愛媛大学、東海大学、桐蔭横浜大学においても、保健体育の教員を目指す学生の授業等で活用されている。また、秋田県、福岡県、長崎県の教育委員会では、教員を対象とする研修講座で、東京都の中学校体育連盟では、授業研究において活用されている。

2 単元デザイン力の構成要素

またここでは、単元構造図について検討する上で、単元計画とは、いったいどのようなことを考え合わせて示されるべきか、整理することとした。高橋は、「単元計画では、単元で取り扱う運動についての考え方（教材解釈、運動の特性）、単元の目標、学習内容のおさえ方、学習指導の方法（学習形態、学習過程のとらえ方）が明確に示される。」と述べるとともに、「単元目標は、単なる理想を示すものではない。単元目標は、単元の終わりに学習者が達成できるものでなければならない。また、目標は単元の終わりに学習者や指導者がはっきりと評価できるように、具体的に表現されなければならない。」と述べている。⁴⁾つまり、ねらったこと（単元目標）を実現できたのかを、判断できるようにしておくこと（単元の評価規準の設定）が必要であり、単元目標と評価規準は表裏一体のものと考えることができる。

以上のことから、本研究では、単元計画作成の際、考え合わせて示されるべき内容は、前提となる生徒・学校の実態の他に、上記の内容を加え、次の5つとして検討を進めた。

- (1) 生徒・学校の実態、
- (2) 運動の特性、
- (3) 単元目標（評価規準）、
- (4) 指導内容、
- (5) 指導方法（学習形態、学習過程等）。

そして本研究においては、単元計画を作成する上で必要な力を、単元デザイン力とし、5つの構成要素からなるものとして定義した。（表1）

表1 単元デザイン力の構成要素

| NO. | 構成要素 |
|-----|---------------------|
| (1) | 生徒・学校の実態把握 |
| (2) | 運動の特性の理解 |
| (3) | 単元目標(評価規準)の設定 |
| (4) | 指導内容の設定 |
| (5) | 指導方法(学習形態、学習過程等)の適用 |

【内容及び方法】

1 研究の期間

平成24年4月～平成25年3月

2 研究の内容

「簡易版単元計画の構造図作成ツール」の研修における有効活用について

3 研究の方法

(1) 研修講座におけるツール活用で期待できる効果を予想するため、体育センター指導主事6名により検討会を実施した。（5月2日）

(2) 次の研修講座で、ツールを活用したあとに、アンケート調査を実施し、その結果を踏まえながら、ツール活用の効果を特定しつつ、ツールの改善を図っていった。

ア 高等学校保健体育初任者研修講座（以下、高校初任研）1日目（5月10日）・・・手作業

- イ 中学校保健体育 10 年経験者研修講座（以下、中学 10 年研） 1 日目（8 月 2 日）
・・・パソコンでの作業
- ウ 神奈川県中学校体育連盟研究部第 2 回学習会（以下、県中体連学習会）（10 月 2 日）
・・・手作業

エ 高校初任研 4 日目（10 月 18 日）・・・パソコンでの作業

（3）研修講座におけるツール活用を総括するため、体育センター指導主事 6 名を中心に検討会を実施した。（12 月 4 日、1 月 24 日）

【経過（結果と考察）】

1 検討会（5 月 2 日）

年度当初、研修講座での活用にあたり、ツール活用による効果について検討した結果、概ね次のような効果があるのではないかと考え、研修講座での活用をスタートした。

＜ツール活用による効果＞

- （1）学習指導要領を踏まえた授業を考えることができる。
- （2）指導内容にもれがなくなる。（態度を教えるという意識がない教員もいる。）
- （3）教え過ぎもなくなる。
- （4）単元全体を見渡せる。
- （5）指導と評価の時期を考えやすい。

2 高校初任研 1 日目（5 月 10 日） 受講者 39 名 研修時間 3 時間 30 分

平成 23 年度に試作したツールのフォーマット（中学校第 3 学年 球技 バレーボール 資料 2）を手作業が可能なように、少し修正して（資料 3）活用した。

＜活用（手作業）＞

受講者は、フォーマット（A 3 版に印刷したもの）の B 1 ゾーンに、学習内容のキーワードの書かれたカードを配置するとともに、評価する時間についても記入し、B 2 ゾーンには学習過程のサンプルを参考に、学習過程を記入し、簡易版単元構造図を作成した。

＜受講者の意見を踏まえた考察＞

研修講座終了後、受講者に対し簡易版単元構造図の作成の長所について、アンケート調査（資料 5）を行い、結果を検討・分類して内容ごとに並び替えたものが資料 5 であり、その抜粋が表 2 である。

のべ 22 名の受講者が、簡易版単元構造図作成の長所について、「指導内容等が構造化され、一覧性があり、見えやすくなっている（可視化）」といった内容を記載しており、簡易版単元構造図の作成は、学習指導要領及び解説に記載されている内容が見えやすくなり、理解を促進する効果があると考えられる。

また、のべ 10 名が指導内容の確認・明確化に役立つといった内容を記載し、のべ 7 名が、指導と評価の関連についてわかりやすいといった内容を記載しているが、これらは、簡易版単元構造図による指導内容の可視化による理解促進がもたらす効果と考えられる。

このことから、5 月 2 日の検討会での見解と受講者の見解が概ね一致していることが、確認できた。

表2 高校初任研1日目のアンケート結果 (n=38)

| NO. | 簡易版単元構造図作成の長所<抜粋> | (記載内容による)分類名 < >内はのべ人数 |
|-----|---|---------------------------|
| 7 | 指導する内容の全体像が一枚でわかるのでよかったです。 | 構造化・一覧性による可視化 <22> |
| 10 | 一目で指導・活動内容と評価がわかる。 | |
| 20 | 学習指導要領、解説にのっとっているかが一目瞭然でわかる。 全体的な流れなどを組みやすい。 | |
| 22 | 構造化されていて分かりやすかった。 | |
| 26 | 今まで何となくだったものが、明確になり、考えさせられるものが多々ありました。 | 指導内容の確認や明確化が しやすい<10> |
| 31 | 指導する内容と評価の時間がすぐに分かるので、授業をする際にも計画的に指導・評価ができる。 | 指導と評価の関連を具体的に 考えやすい<7> |

3 中学10年研(8月2日) 受講者5名 研修時間3時間30分

「(完成版の)サンプルがあるとよい」、「理解しにくく、時間がかかる」などの高校初任研(第1日目)でのアンケート結果も踏まえ、平成23年度に試作したツール(中学校第1・2学年 球技 バレーボール 資料6)を、改善した。(資料7)

<資料7の主な改善点>

- ・サンプルの作成
- ・作成手順書の作成
- ・フォーマットの修正

<活用(パソコンでの作業)>

受講者は、1人が1台のパソコンを使い、サンプルを参考に、画面上のフォーマットのB1ゾーンに指導内容のキーワードの書かれたカードを配置しながら、それを評価する時間をセルに色を付け特定した。また、B2ゾーンに学習過程を記入し、簡易版単元構造図を作成した。

<アンケートの作成>

5月2日の検討会及び高校初任研1日目のアンケート結果より、ツール活用(簡易版単元構造図の作成)による効果を、仮に次の5つと考え、アンケートを作成した(資料8)。

- (1) 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解できる。
- (2) 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できる。
- (3) 指導と評価の時期を考える方法を理解できる。
- (4) 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できる。
- (5) 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容について理解できる。

<受講者の意見を踏まえた考察>

研修講座修了後、受講者に対し、アンケート調査(資料8)を行った結果が、資料9であり、上記5つの期待できる効果について聞いた結果が、表3である。全員が(1)~(5)の間に対して、「思う」または「どちらかというと思う」と回答しており、受講者人数は5名と少ないが、研修講師側と受講者側でツール活用による効果を共有できていることが確認できた。

表3 中学10年研アンケート（ツール活用の効果）についての回答結果（n=5）

（単位：人）

| | | 思う | どちらかというと思う | どちらかというと思わない | 思わない |
|-----|---|----|------------|--------------|------|
| (1) | 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| (2) | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| (3) | 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。 | 4 | 1 | 0 | 0 |
| (4) | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。 | 4 | 1 | 0 | 0 |
| (5) | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。 | 5 | 0 | 0 | 0 |

4 県中体連学習会（10月2日） 受講者33名 研修時間1時間30分

<対象>

神奈川県中学校体育連盟研究部に所属する中学校の教員（教職経験年数は、数年から20年以上まで）

<活用（手作業）>

中学10年研で活用したツール（資料7）を手書き用に少し修正し（資料10）、活用した。具体的には、サンプルや作成手順書を参考に、フォーマットを印刷したA3版の用紙に、手書きで記入し、簡易版単元構造図を作成した。

表4 県中体連学習会アンケート（ツール活用の効果）についての回答結果（n=33）

（単位：人）

| | | 思う | どちらかというと思う | どちらかというと思わない | 思わない |
|-----|---|----|------------|--------------|------|
| (1) | 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。 | 21 | 12 | 0 | 0 |
| (2) | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。 | 22 | 11 | 0 | 0 |
| (3) | 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。 | 20 | 13 | 0 | 0 |
| (4) | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。 | 22 | 11 | 0 | 0 |
| (5) | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。 | 19 | 13 | 0 | 0 |

<受講者の意見を踏まえた考察>

研修修了後、受講者に対し、中学10年研とほぼ同様なアンケート調査（資料11）を行った結果が、資料12であり、前述の5つの期待できる効果について聞いた結果が、表4である。ここでも、全員が（1）～（5）の間に対して、「思う」または「どちらかというと思う」と回答しており、研修講師側と受講者側でツール活用の効果を共有できていることが再度確認できた。中学10年研の結果と比較すると、「どちらかというと思う」と答えた人の割合が多いが、受講者の経験年数の幅が広いことで、講師側の説明や意図が十分伝わらなかった可能性も考えられる。

5 高校初任研4日目（10月18日） 受講者39名 研修時間3時間30分

<活用の具体>

中学10年研で活用したツール（資料7）を元に、高校初任研最終日に行う模擬授業の実施種目に合わせた高等学校入学年次用のツール（「体づくり運動」 球技 ゴール型「バスケットボール」、「サッカー」、ネット型「バレーボール」「バドミントン」 資料13）を作成し、活用した。受講者は、1人が1台のパソコンを使い、画面上で指導内容の書かれたカードを、授業時間ごとにB1ゾーンに配置するとともに、それを評価する時間もセルに色を付け特定した。また、B2ゾーンにサンプルを参考に学習過程を記入し、簡易版単元構造図を作成した。

<受講者の意見を踏まえた考察>

研修修了後、受講者に対し、中学10年研とほぼ同様なアンケート調査（資料14）を行った結果が、資料15であり、前述の5つの期待できる効果について聞いた結果が、表5である。ここでも、ほとんどの受講者が（1）～（5）の間に対して、「思う」または「どちらかというと思う」と回答しており、研修講師側と受講者側でツール活用の効果を共有できていることが再度確認できた。しかしながら、初任研1日目と4日目の2度ツールを活用したにもかかわらず、「どちらかというと思わない」と回答した受講者がのべ7名、「思わない」と回答した受講者がのべ1名おり、初任研におけるツールの活用については、きめ細かな説明を加えたり、活用法を含めた検討が必要であると考えられる。

表5 高校初任研4日目アンケート（ツール活用の効果）についての回答結果（n=38）

（単位：人）

| | | 思う | どちらかというと思う | どちらかというと思わない | 思わない |
|-----|---|----|------------|--------------|------|
| (1) | 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解できましたか。 | 19 | 18 | 1 | 0 |
| (2) | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。 | 21 | 15 | 2 | 0 |
| (3) | 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。 | 19 | 17 | 2 | 0 |
| (4) | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。 | 19 | 17 | 1 | 1 |
| (5) | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。 | 24 | 13 | 1 | 0 |

6 検討会（12月4日、1月24日）

4つの研修講座が終了した12月には、体育センター指導主事6名を中心に、これまでの研修講座でのツールの活用を総括するために検討会を持った。まずは、単元構造図と一般的な「単元計画」とを比較検討するため、一般的な「単元計画を作る上で必要なこと」についてブレインストーミングを行い、知識を共有することとした。（ブレインストーミングの際、メンバーは単元デザイン力の定義《表1》を知らない）そしてその結果を、単元デザイン力の定義に合わせて分類したところ（表6）、1つ（no.21）を除いて全てのアイデアが、概ね5つの構成要素にあてはまり、定義が概ね妥当であることも確認できた。

表6 ブレインストーミング「単元計画を作る上で必要なこと」の結果の分類<抜粋>

| NO. | 単元デザイン力の構成要素 | no. | ブレインストーミングにより出たアイデア 「単元計画を作る上で必要なこと」 |
|-----|---------------------|-----|---|
| (1) | 生徒・学校の実態把握 | 1 | 生徒の興味・関心をイメージする |
| | | 2 | 生徒のそれまでの運動経験の把握 |
| | | 3 | 生徒から見た運動の特性をイメージする |
| | | 4 | 自校の年間計画の把握 |
| | | 5 | 3年間の見通し、校種の接続 |
| | | 6 | 使用できる施設や器具を確認 |
| (2) | 運動の特性の理解 | 7 | 身につけさせる技能のポイントやコツを把握し整理する |
| | | 8 | 技能体系 |
| | | 9 | その運動の危険性の把握 |
| | | 10 | そのスポーツ(運動)の特性を知る。 |
| (3) | 単元目標(評価規準)の設定 | 11 | 目指す子どもの姿(評価規準) |
| | | 12 | 生徒の実態から単元の終わりでの到達目標(評価規準) |
| | | 13 | 評価方法の知識 |
| (4) | 指導内容の設定 | 14 | 学習指導要領及び解説の理解 |
| | | 15 | 学習内容の精選(2年間の振り分け) |
| | | 16 | 何を指導するのか(したいのか)はっきりしていること |
| (5) | 指導方法(学習形態、学習過程等)の適用 | 17 | 学習内容を踏まえた学習活動の考案 |
| | | 18 | 発問の仕方を知っていること |
| | | 19 | 学習活動(過程)のイメージ |
| | | 20 | 指導の順番を知っていること |
| (6) | その他 | 21 | 単元計画を作成するテクニック |

また1月には、「ツールの活用により、単元デザイン力のどの構成要素を保証できるのか」について同メンバーにより、表6をもとに検討を行った。ここでは、「学習指導要領及び解説の内容を踏まえざるを得ないことから、指導内容の設定の仕方を学ぶことができる」、「単元の授業時数を意識せざるを得ないことから、指導内容をどのような学習過程で指導すべきかを明確に考えることができる」、「指導方法や評価方法を適用するのは、経験がないと難しい」、「評価規準についても、指導内容を選べばそれに対応する評価規準が予め用意されているので、受講者は、評価規準を設定している感覚がないのではないか」といった意見が多く出た。

また、「初任の教員と10年経験した教員とでは、必然的にツールの活用で保証できる内容は、異なってくる」、「経験を積んだ教員においても、指導内容や指導方法を改めて確認するよい機会となる」といった意見も出た。表7は、ツール活用により保証可能な単元デザイン力について、検討結果を整理した表である。また図2は、表7の理由を具体化したイメージ図である。

一方で、これまでの研修講座におけるツールの活用では、保証しにくい単元デザイン力の構成要素があることも浮き彫りになってきた。特に(5)指導方法(学習形態、学習過程等)の適用については、「初任の教員には、指導の『引き出し』が少なく難しい」といった意見が出た。

そして最終的には、対象によってツール活用の仕方を明確に分けるべきであるといった結論が

導かれた。

表7 ツール活用（簡易版単元構造図の作成）により保証可能な単元デザイン力

| NO. | 単元デザイン力の構成要素 | ツール活用による保証 | 理由 |
|-----|---------------------|------------|--|
| (1) | 生徒・学校の実態把握 | × | フォーマットに記載する欄がない。 |
| (2) | 運動の特性の理解 | × | フォーマットに記載する欄がない。 |
| (3) | 単元目標（評価規準）の設定 | ○ | 指導要領の記述から、単元目標は考えやすくなっており、評価時期も考えざるをえない状況になる。また、評価規準も指導内容とセットで予め用意されているが、学習活動や学習カード（記載内容）が特定されないため、最終的な評価方法までは、考えなくても済んでしまう。 |
| (4) | 指導内容の設定 | ◎ | 法的根拠となる学習指導要領と解説の記載（A1ゾーン）を元に指導内容を設定せざるをえない。指導時間に限りがあることや、評価が可能かどうか、同時に考えざるをえない状況となることから、指導内容を明確化し精選せざるをえない状況となる。 |
| (5) | 指導方法（学習形態、学習過程等）の適用 | △ | B1ゾーンに指導内容を配置することから、指導内容とリンクした学習過程を考えざるをえない状況になる。しかしながら、具体的な活動や指導方法までは記載しないことから、実践的でない計画となってしまうことがある。経験の浅い教員などは、具体的な活動や指導方法をイメージできないこともある。 |

- ◎ 保証できる可能性が大きい ○ 活用の仕方により保証できる
 △ 活用の仕方を工夫しないと保証できない × 保証することが難しい

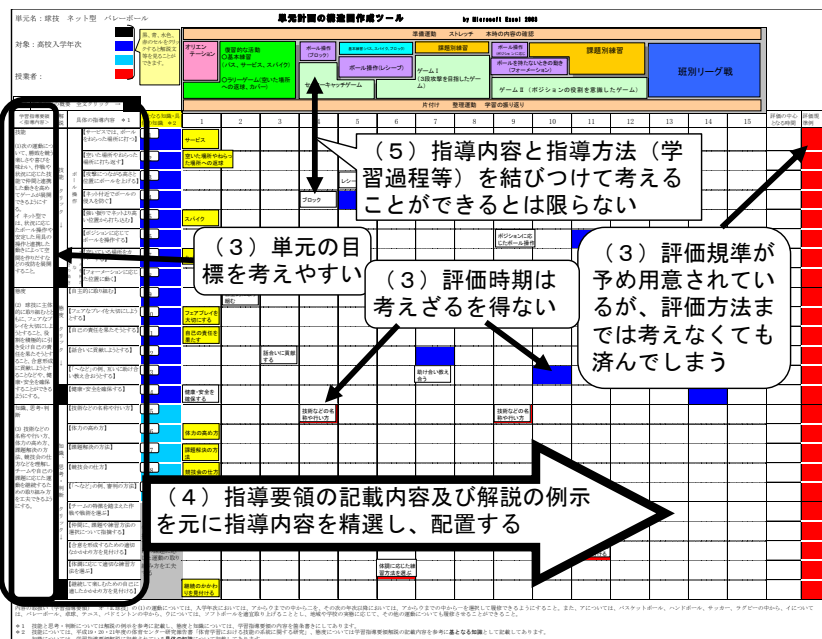


図2 表7の理由を具体化したイメージ図

【考察】

本研究では、単元デザイン力の5つの構成要素を元に、単元計画づくりについて、ツールの活用を念頭に検討してきたが、実際に単元計画を作成するには、5つの構成要素を中心に様々な知識を動員し、しかも同時に考え合わせる事となる。

吉崎は、授業についての教師の知識領域を図3により提案しており、教材内容についての知識と教授方法についての知識の交わったAの部分をはじめとする複合的知識の重要性について言及している。⁵⁾

つまり、単元デザイン力についても、構成要素と構成要素を効果的にリンクさせる複合的知識があつてはじめて、ツール活用時に、指導内容と指導方法などをリンクさせて考えることが、可能になるとも考えられる。

本研究におけるブレインストーミングの際、1つだけ、単元デザイン力の5つの構成要素にあてはまらなかった「単元計画を作成するテクニック」というアイデアが出たが(表6)、これは、構成要素と構成要素をリンクさせる複合的な知識を活用するテクニックと考えることもできる。

また吉崎は、「複合的知識は、授業実践の経験を通して獲得される『実践的知識』にほかならない。」⁵⁾と述べており、この実践的知識のないことが、初任の教員にとって、実践的な単元計画の作成が難しい理由と考えることができる。

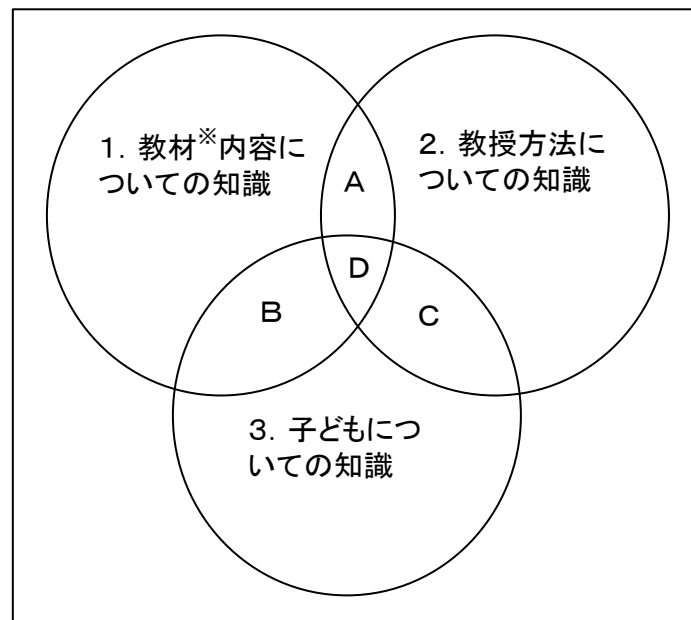


図3 授業についての教師の知識領域 (吉崎 1999) ※は筆者加筆

※ 教材：教授及び学習の材料。学習の内容となる事柄をいう場合と、それを伝える媒体となる物を指す場合とがある。(広辞苑) 図3の教材は、学習の内容(指導内容)と捉えた。

【まとめ】

1 ツール活用による効果

本研究では、研修講座でツールをより有効活用できるよう、ツールの活用と検討を繰り返してきた。その結果、ツールには、次の長所があることが明らかになった。

- (1) 学習指導要領及び解説の内容が、表や箇条書きで示されており、理解しやすく整理されている。
- (2) 学習指導要領及び解説をもとにした指導内容を、評価と絡めて時系列で考えながら、設定ができる。

以上の2つの長所から、ツール活用による一番の効果は、指導内容の設定方法の理解であると考えられ、具体的には、表8の5つの効果が考えられる。

表 8 研修講座におけるツールの活用により期待できる具体的効果

| | |
|-----|---|
| (1) | 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解できるようになる。 |
| (2) | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できる。 |
| (3) | 指導と評価の時期を考える方法を理解できる。 |
| (4) | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できる。 |
| (5) | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まる。 |

また一方で、表 7 から生徒・学校の実態把握や運動の特性の理解については、これまでのツールの活用方法では、保証が難しいなど、ツール活用による実践的な単元計画作成のための課題も明らかになった。しかしながら研修講座としては、時間を調整できれば、生徒・学校の実態把握や運動の特性の理解を促進するプログラムをツール活用と併せて実施することで、単元計画作成のための実践力=単元デザイン力を育成することは可能であると考えられる。

2 ツールの改善

本研究におけるツールの改善については、研修講座ごとに少しずつ行ってきた。主な改善点としては、サンプル（資料 13-2）と手順書（資料 13-3）の作成があげられる。フォーマットについては、見やすさを追求したマイナーチェンジを行った。（図 4）

図 4 最終的なツール（フォーマット）

また、活用法の改善につながるものとして、対象に応じた活用に向けての目安ができてきた。表 9 は、初任と 10 年経験者を対象とした研修講座でのねらいと活用例を示したものである。

表9 研修講座におけるツール活用のねらいとツール活用例

| 研修講座 | ねらい | ツール活用例 |
|----------------|--|--|
| 初任者 研修講座 | 学習指導要領及び解説の内容構成を理解するとともに、単元計画の考え方の枠組みを理解すること | 1回目 ツールの構造を理解した上で、学習指導要領及び解説を読み解きながら、ツールにより単元計画を構想する 2回目 模擬授業を想定し、実践的な単元計画をツールにより構想する |
| 10年経験者 研修講座 | 生徒の実態を踏まえながら、指導内容と指導方法（学習過程）をリンクさせて実践的な単元計画を構想すること | 「この指導内容を身につけさせるには、この指導方法（学習過程）を適用する」といったディスカッションをしたあとで、ツールにより、より実践的な単元計画を構想する |

また4回の研修講座で、パソコンでの作業を2回、紙のフォーマットによる手作業を2回実施し、いずれも研修の成果がアンケート等から確認でき、状況に応じた活用法を構築することができた。

【課題】

ツールはあくまでの研修講座の手段であり、ツールの活用がねらいではない。研修講座のねらいを明確にした上で活用することが必要である。

アンケートの自由記述には、態度や知識、思考・判断の指導内容の配置が難しかったという感想があった。技能の指導内容であれば、その技能を身につけるための指導方法（学習過程など）を思い浮かべたり、または実技書で調べたりすることは比較的簡単であるが、態度の指導内容を指導方法と結びつけて考えることは、経験を積んだ教員にとっても難しいことであると考えられる。ツール活用の際に、態度や知識、思考・判断の具体的な指導方法（学習過程）例を示すことができるよう、事例等を収集しておくとともに、技能だけでなく、態度や知識、思考・判断の内容も踏まえた学習過程の、B2ゾーンへの記載方法も今後の検討課題である。

【今後の展望】

本研究におけるツールの活用は、全て個人作業であったので、今後はグループワークでの活用も視野に入れながら、他の研修講座（2年経験者、5年経験者等）での活用も検討し、より効果的な活用法をさらに追求していきたい。

また、単元構造図を教材として活用している大学等との情報交換を積極的に行い、ツールの持つ研修教材としての価値を高めていきたいと考えている。

【引用・参考】

- 1) 佐藤豊「体育理論の授業をつくろう」、佐藤豊・友添秀則『楽しい体育理論の授業をつくろう』大修館書店、2011年、124頁
- 2) 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育過程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」2010年3月14日
- 3) 佐藤豊 友添秀則 今関豊一 日野克博「体育科教育のこれから—学習指導要領は何を求めているのか—」『鹿屋体育大学学術情報リポジトリ学術研究紀要』第45号、鹿屋体育大学、2012年11月、63頁
- 4) 高橋健夫「体育の指導計画」、宇土正彦 高島稔 永島惇正・高橋健夫『新訂体育科教育法講義』大修館書店、2000年、94-95頁
- 5) 吉崎静夫『デザイナーとしての教師アクターとしての教師』金子書房、1999年、42-47頁

新学習指導要領に対応した単元計画の構造図のサンプル
【球技(ネット型)の単元計画の作成】

〇〇県 学校名 〇〇市立〇〇中学校 授業者

網掛けの箇所は、学習指導要領、解説から転載する箇所です。2学年の内容から該当学年(第1学年)で扱う内容を

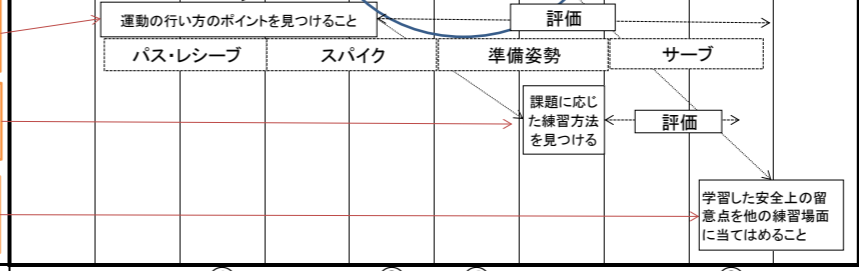
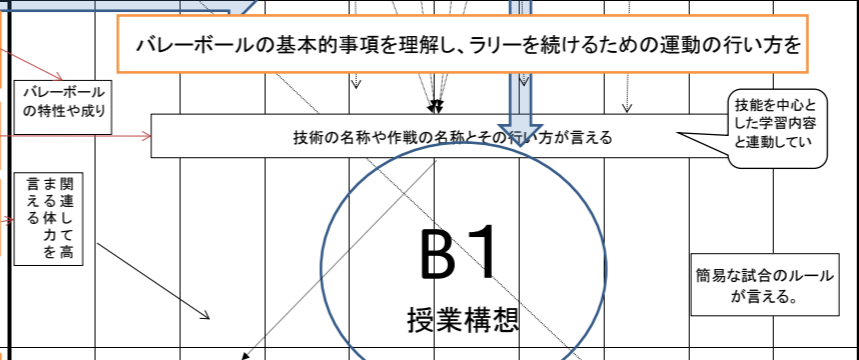
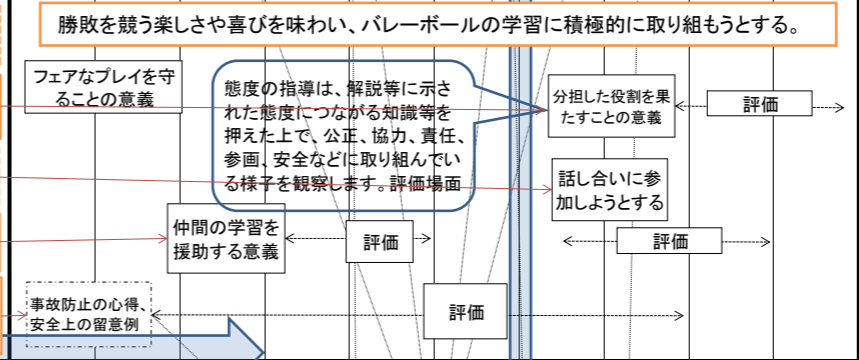
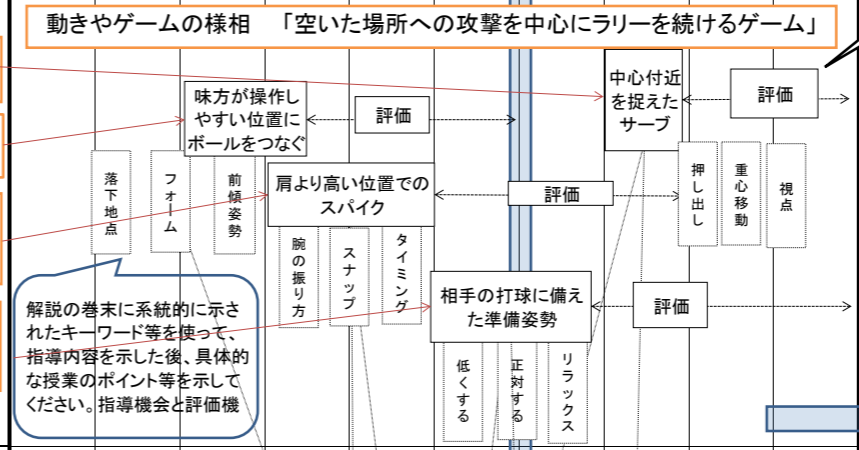
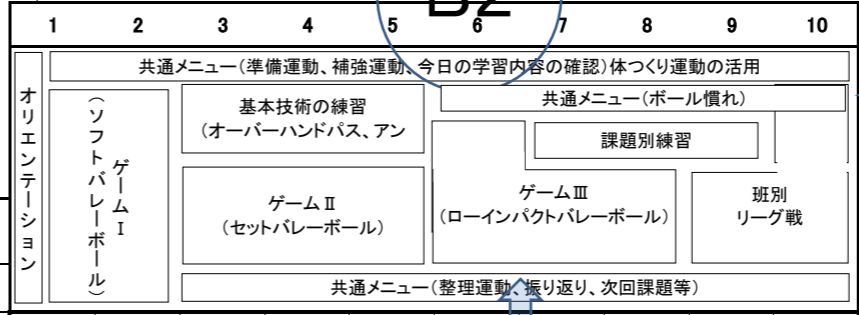
技能は、実際の授業場面で、生徒にわかるようなかみ砕いた言葉、発問や動きのコツなどを記載してください。態度と知識、思考・判断は、解説に示された記載等を主に抜粋したり、具体的に教える内容を記載しておいてください。

安全上の留意点、
3~5時間目は、授業前半にバレーボールのゲームに必要なボール操作の基本技術を練習。後半はボールキャッチありのセットバレーボールゲームを行い、攻撃に持ち込むためのゲーム要素を理解させる。また、個人とチームのレベルを分

中学校1.2年は、8~10時間程度、中学校3年及び高等学校1年は、15~20時間程度、高校2.3年では、20~30時間程度を目安にして、適宜単元計画を立ててください。単に練習、ゲームとするのではなく、教材の工夫や指導方法がある程度分かるように作成してください

Table with 4 columns: ① 単元名, ② 指導内容の概要, ③ 学習指導要領の内容(1.2学年), ④ 学習指導要領解説の記載内容(1.2学年). Rows include 1 技能, 2 態度, 3 知識・思考・判断, and 内容の取扱い.

Table with 2 columns: ⑤ 授業のポイント(生徒への発問や声かけの仕方など), ⑥ 授業の観点. Rows include 第1学年の内容, 関係・意欲・態度, 評価の観点, 思考・判断, 運動の技能, 知識・理解.



Evaluation criteria table with 2 columns: 主に観察による評価部分, 主に学習ノート等による評価部分. Rows include 運動の技能, 関心・意欲・態度, 知識・理解, 思考・判断.

一度に多くの評価となっていない

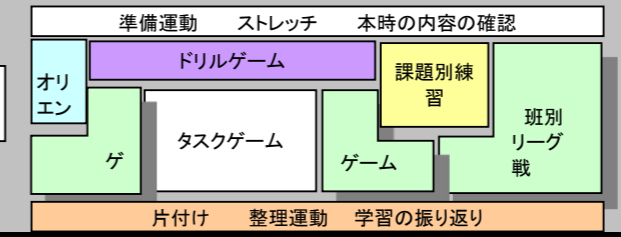
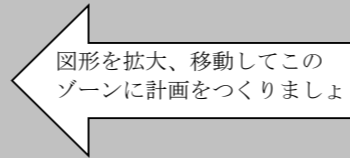
観察による評価は、できる限り一つに留める。

※第3 学年では、ポジションの役割に応じたボールや用具の操作によって、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手側のコートの空いた場所をめぐる攻防を展開できるように

第3 学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携したゲームが展開できるようにすることに自主的に取り

このセルにカーソルを合わせると説明の文を見ることができます。

- * 1 本時の学習の指導内容にあたります。
- * 2 本時案の展開の部分に記載します。



※技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方(ゲームのルール、審判や運営の仕方)を理解できるようにす

※第3 学年では、これまで学習した知識や技能を活用して、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにする。

| 学習指導要領の内容 | 解説 | 学習内容 * 1 | 学習内容の具体 * 2 | | | | | | | | | | | | | | | | 評価時間 | 評価規準例 | | | |
|---|----------------------|--|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|------|-----------------------|--|--|--|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | | | | | |
| 技能 (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携したゲームを展開できるようにする。イネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。 | 解説 技能 全文をクリック↓ | ボール操作 【ねらった場所にサービスする】 【空いた場所やねらった場所へ打ち返す】 【攻撃につながる高さや位置へボールを上げる】 【ネット付近でボールの侵入を防ぐ】 【強い振りでの高い位置からの打ち込む】 【ポジションに応じてボールを操作する】 【空いている場所をカバーする】 【フォーメーションに応じた位置に動く】 | → サービス | | | | | | | | | | | | | | | | | → 評価規準例 技能 クリック | | | |
| | | | → ねらった場所へ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → レシーブ・パス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → ブロック | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → スパイク | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → ポジジョンに応じ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → カバー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 態度 (2) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。自己の責任を果たそう、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 | 態度 全文をクリック↓ | 【自主的に取り組む】 【フェアなプレイを大切にしようとする】 【「自己の責任を果たそうとする」】 【話し合いに貢献しようとする】 【「～など」の例、互いに助け合い教え合おうとする】 【健康・安全を確保する】 | → 自主的に取り | | | | | | | | | | | | | | | | | → 評価規準例 態度 | | | |
| | | | → フェアプレイ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → 自己の責任を | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → 話し合いに貢献 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → 互いに助け合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → 健康・安全を確 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 知識、思考・判断 (3) 技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 | 知識、思考・判断 全文をクリック↓ | 【技の名称や行い方】 【体力の高め方】 【運動観察の方法】 【「～など」の例、試合の行い方】 【自己や相手の特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶ】 【課題や練習方法の選択について指摘する】 【合意を形成するための適切なかかわり方を見付ける】 【体調に応じた練習方法を選ぶ】 【継続して楽しむためのかかわりを見付ける】 | → 技の名称や行 | | | | | | | | | | | | | | | | | → 知識 思考・判断 | | | |
| | | | → 体力の高め方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → 運動観察の方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → 試合の行い方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → 作戦や戦術を | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → 課題や練習方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → 合意形成のかか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | → 練習方法を選 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| → 継続のかかわ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

内容の取り扱い
 全文をクリック↓

高校初任研1日目で活用したツール（フォーマット）

※第3学年では、ポジションの役割に応じたボールや用具の操作によって、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手側のコートの中をめぐりながら攻守を展開できるよ

第3学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携したゲームを展開できるようにすることに自主的に取り

※技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方（ゲームのルール、審判や運営の仕方）を理解できるようにする。（知

※第3学年では、これまで学習した知識や技能を活用して、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにする。（思考・

このセルにカーソルを合わせると説明の文を見ることができま

- *1 本時の学習の指導内容にあたります。
- *2 本時案の展開の部分に記載します。

| | | |
|------------------|-------|----------|
| 準備運動 | ストレッチ | 本時の内容の確認 |
| オリエンテーション | | |
| 片付け 整理運動 学習の振り返り | | |

| 学習指導要領の内容 | 解説 | 学習内容 *1 | 学習内容の具体 *2 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | 評価時間 | 評価規準例 | | | |
|--|-----------------------------|--|--|------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|------|--|-----------------------------|---------------------------------|--|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | | | | | |
| 技能 （1）次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにする。イネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐりながら攻守を展開すること。 | 解説 技能 全文クリックス ↓ | ボール操作 【ねらった場所にサービスする】 【空いた場所やねらった場所へ打ち返す】 【攻撃につながる高さや位置へボールを上げる】 【ネット付近でボールの侵入を防ぐ】 【強い振りでの高い位置からの打ち込む】 【ポジションに応じてボールを操作する】 | 【学習内容】ボールをねらった場所にサービスするには、ねらった方向に踏み出し（助走）ながら打ち、フォロースルーをすること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | 一 評 価 規 準 例 技能 ク リ ッ ク | ボールをねらった場所にサービスすることができる。 | | |
| | | | 【学習内容】ボールを相手側のコートの中をめぐりながら強く打ったり、弱く打ったりすること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ボールを相手側のコートの中をめぐりながら打ち返すことができる。 | |
| | | | 【学習内容】攻撃につながるための次のプレイをしやすき高さや位置にボールをレシーブするには、バスの方向に体を向け、ボールが飛んできた角度に対してはね返りの角度をつくること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 攻撃につながるための次のプレイをしやすき高さや位置にボールを上げることができる。 |
| | | | 【学習内容】ネット付近でボールの侵入を防ぐには、ボールの正面に素早く移動し、真っ直ぐにジャンプすること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ネット付近でボールの侵入を防ぐことができる。 |
| | | | 【学習内容】腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むには、両腕の振り上げから、リードした腕を脇を締めるように強く引きつけ、ボールの上部をたたくように打ち込むこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 |
| | | | 【学習内容】ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりするには、レシーバーは、セッターに、攻撃につながりやすいパスをすること。セッターは、レシーブされたボールの落下点に素早く入り、膝の屈伸を使ってネットから30～50cm離れた位置に山なりの送球をすること。アタッカーは、オーブントスが上がってからボールの軌道を目測して助走を開始すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。 |
| 態度 （2）球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。自己の責任を果たそう、作戦などについての話し合いに貢献しようとする。健康・安全を確保することができるようにする。 | 態度 全文クリックス ↓ | 【自主的に取り組む】 【フェアなプレイを大切にしようとする】 【「自己の責任を果たそうとする】 【話し合いに貢献しようとする】 【「～など」の例、互いに助け合い教え合おうとする】 【健康・安全を確保する】 | 【学習内容】上達していくためには繰り返し繰り返し強く取り組むことが大切であること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | 一 評 価 規 準 例 態 度 | 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 | | |
| | | | 【学習内容】ルールやマナーを大切にすることは、友情を深めたり連帯感を高めたりするなど、生涯にわたって運動を継続するための重要な要素となること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | フェアなプレイを大切にしようとしている。 |
| | | | 【学習内容】活動時間の確保につながることやチーム内の人間関係が良くなること、自主的な学習が成立すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 自己の責任を果たそうとしている。 |
| | | | 【学習内容】相互の信頼関係を深めるためには、相手の感情に配慮しながら発言したり、提案者の発言に同意したりして話し合いを進めることなどが大切であること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 話し合いに貢献しようとしている。 |
| | | | 【学習内容】相互の信頼関係を深めたり、課題の解決に役立つなど自主的な学習を行いやすくなりすること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 互いに助け合い教え合おうとしている。 |
| | | | 【学習内容】用具の安全確認の仕方、段階的な練習の仕方、けがを防止するための留意点など。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 健康・安全を確保している。 |
| 知識、思考・判断 （3）技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 | 知識 思考・判断 全文クリックス ↓ | 【技の名称や行い方】 【体力の高め方】 【運動観察の方法】 【「～など」の例、試合の行い方】 【自己や相手の特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶ】 【課題や練習方法の選択について指摘する】 【合意を形成するための適切なかわり方を見付ける】 【体調に応じた練習方法を選ぶ】 【継続して楽しむためのかわり方を見付ける】 | 【学習内容】球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦の名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻守のポイントであること。技術はボール操作とボールを持たないときの動きに大別できること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | 一 知 識 | 技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 | | |
| | | | 【学習内容】球技のパフォーマンスは、型や運動種目によって、様々な体力要素に強く影響される。そのため、ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を取り入れ、繰り返し行ったりすることで、結果として体力を高めることができること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 |
| | | | 【学習内容】ゲームの課題に応じて、練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があること。各型のゲームの課題に応じて、ボール操作とボールを持たないときの動き並びにそれらに関連したプレイの判断に着目し観察することで、個人やチームの学習課題が明確になり、学習成果を高められること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 運動観察の方法について、理解したことを言ったり書いたりしている。 |
| | | | 【学習内容】ゲームのルール、審判や運営の仕方があること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 試合の行い方について学習した具体例を挙げている。 |
| | | | 【学習内容】提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 |
| | | | 【学習内容】仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 |

単元計画の構造図に関するアンケート

体育センター 研修指導班

現在体育センターでは、研修で活用する単元計画の構造図についての研究に取り組んでいます。アンケートに御協力ください。

- 1 研修をとおして感じた「単元計画の構造図作成」の長所と短所を記載してください。

<長所>

<短所>

- 2 その他、単元計画の構造図についての感想を自由に記載してください。

御協力、ありがとうございました。

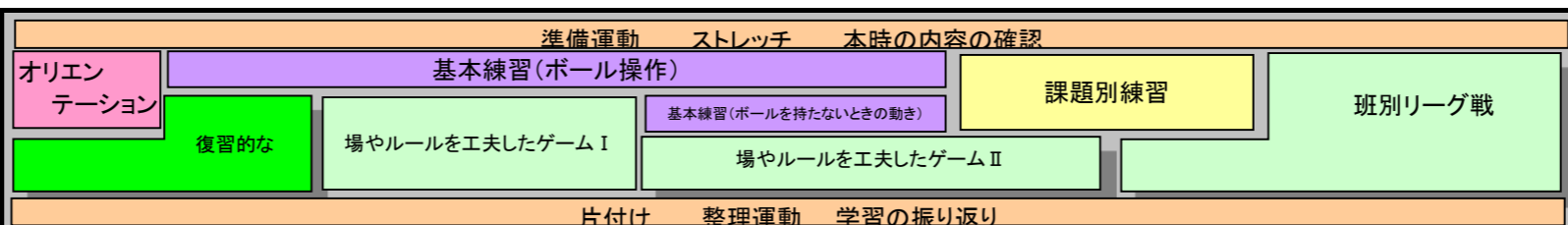
高初任研1日目アンケート調査の結果

| NO. | 簡易版単元構造図作成の長所 | 構造化・一 覧性による 可視化 | 指導内容 の確認や 明確化が しやすい | 指導と評 価の関連 を具体的 に考えや すい |
|-----|--|-----------------------|------------------------------|------------------------------------|
| 1 | 指導要領を見なくても一目でわかるのでよかった。 | 1 | 1 | |
| 2 | 単元計画の全体の流れを考えることができたので参考になりました。教えなければならぬものを確認する意味でもよかったです。 | 1 | 1 | |
| 3 | 構造図を活用することで、授業の全体の流れなどが整理され、やらなければならないことが明確になる。 | 1 | 1 | |
| 4 | 一目でやる内容や評価の時期がわかる。 | 1 | | 1 |
| 5 | 作成し終えた時に、全体図を見ると、指導する内容とそれに対する評価が分かりやすく、また時期や配分を考えやすいと感じた。 | 1 | | 1 |
| 6 | 1枚で単元全ての目標～評価までが把握できること、非常に便利!!! 帰ってすぐに今の単元のものをつくらうと思います。すごいです！研究授業の資料にしたいです。 | 1 | | |
| 7 | 指導する内容の全体像が一枚でわかるのでよかったです。 | 1 | | |
| 8 | 一度に把握しやすい。指導もれを無くすことができる。(内容チェックできる) | 1 | | |
| 9 | 完成すれば見てすぐにわかるので助かる。 | 1 | | |
| 10 | 一目で指導・活動内容と評価がわかる。 | 1 | | |
| 11 | 単元を始めるときの導入から終わりまでのビジョンがわかりやすい。しっかりとその時間でやるべきことがわかる。 | 1 | | |
| 12 | 1枚ですぐわかる。 | 1 | | |
| 13 | 学習内容と評価が見えやすい。 | 1 | | |
| 14 | 全体を見る時には、とても見やすく良いと思う。 | 1 | | |
| 15 | 各項目を見落とすことがなくなる。計画的にできる。 | 1 | | |
| 16 | 全体の流れがわかりやすい。 | 1 | | |
| 17 | 教えるべき内容・評価等一覧で見落としが確認できる。 | 1 | | |
| 18 | 一目でやるべきこと、評価すべき点がわかる。 | 1 | | |
| 19 | 授業の流れをイメージしながら理解できる。 | 1 | | |
| 20 | 学習指導要領、解説にのっとっているかが一目瞭然でわかる。全体的な流れなどを組みやすい。 | 1 | | |
| 21 | 一連の流れをこの1つの図で表すことができ、また試行錯誤しながら何度も組み立て直すことができる。 | 1 | | |
| 22 | 構造化されていて分かりやすかった。 | 1 | | |
| 23 | 指導、評価しなくてはいけない項目がこんなにあったのだと確認することができました。 | | 1 | |
| 24 | 教えるべき内容や、やるべきことを漏らすことなく計画をたてることができる。 | | 1 | |
| 25 | 自分の教えるべき内容の把握と計画の重要性。 | | 1 | |
| 26 | 今まで何となくだったものが、明確になり、考えさせられるものが多々ありまし | | 1 | |
| 27 | 何を教えるべきかが明確になるし、その日に教員が何を注意して見るかもはっきりしてわかりやすくなる。 | | 1 | |
| 28 | 授業で評価すべきこと、していかななくてはならないことを再確認することがで | | 1 | |
| 29 | これさえあれば、単元計画、学習指導と評価の計画案もスムーズに作成できる。また、指導要領をよく読むようになる。 | | 1 | |
| 30 | 指導と評価が一体化しているかどうかすぐにわかること。評価をするタイミングをあらかじめ設定しておくことで、もれがなくなる。 | | | 1 |
| 31 | 指導する内容と評価の時間がすぐに分かるので、授業をする際にも計画的に指導・評価ができる。 | | | 1 |
| 32 | 縦軸と横軸とで指導と評価の設定、確認ができること。 | | | 1 |
| 33 | この図があれば、指導と評価の一体化がしっかりでき、良いものだと思う。評価の仕方がわからなかったのが勉強になった。 | | | 1 |
| 34 | 計画性をもって学習活動と評価を行うことができる。 | | | 1 |
| 35 | 授業を行う上での計画を立てる上で、非常に役立つと感じた。 | | | |
| 36 | 実際の活動の中で、考えていなかった部分が浮き彫りになる。 | | | |
| 37 | 授業の流れがわかる。把握できる。 | | | |
| 38 | 細かく振り分けられていて、ペースをつかむと解りやすかった。 | | | |
| 39 | — | | | |
| | 分類によるのべ人数 | 22 | 10 | 7 |

対象：中学校第1学年

授業者：

黒、青、水色、赤のセルをクリックすると解説文等を見ることが



中学10年研で活用したツール
(フォーマット)

| 解説 | 指導内容の概要 | 全文クリック → | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | | | 評価の中心となる時間 | 評価規準例 | | | |
|--|----------------------|---------------|---|----|------------|---|---|---|---|---|---|---|----|--|--|------------|-------|--|--|--|
| 学習指導要領 <指導内容> | 解説 | 具体的指導内容 *1 | 基となる知識・具体的知識 *2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 技能 (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。 ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。 | 技能 全文クリック ↓ | ボール操作 | 【サーブでは、ボールの中心付近をとらえる】 | 1 | サーブ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【相手側のコートに空いた場所にボールを返す】 | 2 | 空いた場所へ | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【味方が操作しやすい位置にボールをつなぐ】 | 3 | 味方が操作しやす | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【肩より高い位置からボールを打ち込む】 | 4 | スパイク | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【相手の打球に備えた準備姿勢をとる】 | 5 | 準備姿勢 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【プレイを開始するときは、各ポジションごとの定位置に戻る】 | 6 | ポジショニング | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対する】 | 7 | ボールや相手への正対 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 態度 (2) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 | 態度 全文クリック ↓ | ボールを持たないときの動き | 【積極的に取り組む】 | 8 | 積極的に取り | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【フェアなプレイを守ろうとする】 | 9 | フェアプレイを | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。】 | 10 | 分担した役割 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【話し合いに参加しようとする】 | 11 | 話し合いに参加 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【「～など」の例、仲間の学習を援助しようとする】 | 12 | 仲間の学習を | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【健康・安全に気を配る】 | 13 | 健康・安全に | | | | | | | | | | | | | | | |
| 知識、思考・判断 (3) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 | 知識、思考・判断 全文クリック ↓ | ボールを持たないときの動き | 【球技の特性や成り立ち】 | 14 | 球技の特性や | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【技術の名称や行い方】 | 15 | 技術の名称や | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【関連して高まる体力】 | 16 | 関連して高ま | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【「～など」の例、試合の行い方】 | 17 | 試合の行い方 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【技術を身に付けるための運動の行い方を見付ける】 | | 運動の行い方 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【自己やチームの課題を見付ける】 | | 課題を見付け | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【課題に応じた練習方法を選ぶ】 | | 練習方法を選 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【役割に応じた協力の仕方を見付ける】 | | 協力の仕方を | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【安全上の留意点を練習場面や試合場面に当てはめる】 | | 安全上の留意点を | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

内容の取り扱い(学習指導要領) オ「E球技」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからウまでをすべての生徒に履修させること。第3学年においては、アからウまでの中から二を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、ウの実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。

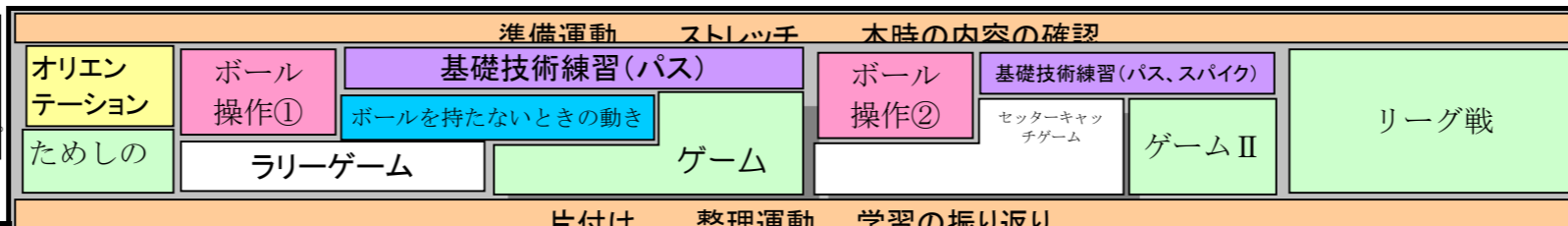
*1 技能と思考・判断については解説の例示に記載し、態度と知識については、学習指導要領の内容を箇条書きにしてあります。
*2 技能については、平成19・20・21年度の体育センター研究報告書「体育学習における技能の系統に関する研究」、態度については学習指導要領解説の記載内容を参考に基となる知識として記載してあります。知識については、学習指導要領解説に記載されている具体的知識について記載してあります。

対象：中学校第1学年

黒、青、赤のセルをクリックすると解説文等を見ることができます

授業者：

中学10年研で活用したツール (サンプル)



| 解説 | 指導内容の概要 | 全文クリック → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 評価の中心となる時間 | 評価規準例 | |
|--|----------------------|--|-----------------|--------|----------|------|---------|---------|--------|--------|---|----|------------|-------|--|
| 学習指導要領 <指導内容> | 解説 | 具体的指導内容 *1 | 基となる知識・具体的知識 *2 | | | | | | | | | | | | |
| 技能 (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。 イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。 | 技能 全文クリック ↓ | 【サーブでは、ボールの中心付近をとらえる】 | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | | 【相手側のコートの中に入った場所にボールを返す】 | 2 | | | | | | | | | | | | |
| | | 【味方が操作しやすい位置にボールをつなぐ】 | 3 | | 味方が操作しやす | | | | | | | | | 3 | |
| | | 【肩より高い位置からボールを打ち込む】 | 4 | | | | | | スパイク | | | | | 7 | |
| | | 【相手の打球に備えた準備姿勢をとる】 | 5 | | | 準備姿勢 | | | | | | | | 4 | |
| | | 【プレイを開始するときは、各ポジションごとの定位置に戻る】 | 6 | | | | ポジショニング | | | | | | | 5 | |
| | | 【ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対する】 | 7 | | | | | | | | | | | | |
| 態度 (2) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。 | 態度 全文クリック ↓ | 【積極的に取り組む】 | 8 | | 積極的に取り | | | | | | | | 8 | | |
| | | 【フェアなプレイを守ろうとする】 | 9 | | | | | フェアプレイを | | | | | 9 | | |
| | | 【分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。】 | 10 | | | | | | | | | | | | |
| | | 【話し合いに参加しようとする】 | 11 | | | | | | | | | | | | |
| | | 【「～など」の例、仲間の学習を援助しようとする】 | 12 | | | | | | | | | | | | |
| 【健康・安全に気を配る】 | 13 | 健康・安全に | | | | | | | | | | 10 | | | |
| 知識、思考・判断 (3) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 | 知識、思考・判断 全文クリック ↓ | 【球技の特性や成り立ち】 | 14 | 球技の特性や | | | | | | | | | 1 | | |
| | | 【技術の名称や行い方】 | 15 | 技術の名称や | | | | | 技術の名称や | | | | 1・6 | | |
| | | 【関連して高まる体力】 | 16 | | | | | 関連して高ま | | | | | 5 | | |
| | | 【「～など」の例、試合の行い方】 | 17 | | | | | | | | | | | | |
| | | 【技術を身に付けるための運動の行い方を見付ける】 | | | | | 運動の行い方 | | | | | | 4 | | |
| | | 【自己やチームの課題を見付ける】 | | | | | | | | 課題を見付け | | | 8 | | |
| | | 【課題に応じた練習方法を選ぶ】 | | | | | | | | | | | | | |
| 【役割に応じた協力の仕方を見付ける】 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【安全上の留意点を練習場面や試合場面に当てはめる】 | | | | | | | | | | | | | | | |

内容の取り扱い(学習指導要領) オ「E球技」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからウまでをすべての生徒に履修させること。第3学年においては、アからウまでの中から二を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、ウの実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。

*1 技能と思考・判断については解説の例示を参考に記載し、態度と知識については、学習指導要領の内容を簡条書きにしてあります。
*2 技能については、平成19・20・21年度の体育センター研究報告書「体育学習における技能の系統に関する研究」、態度については学習指導要領解説の記載内容を参考に基となる知識として記載してあります。知識については、学習指導要領解説に記載されている具体的知識について記載してあります。

□単元計画構造図作成ツール手順

- 1 学習指導要領の内容(「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」)を読む。
- 2 学習指導要領解説の内容を例示を中心に読む。

□単元計画構造図作成ツール手順

- 3 生徒の実態を想定する。
- ・
- ・
- ・
- ・

●小学校のボール運動(ネット型)

○学習指導要領解説体育編(第5学年及び第6学年)

(1)技能 イ ネット型

操作しやすいボールを用いたり、ボール操作についての制限を緩和することを通して、連携プレーによる攻撃やそれに対応する守備がしやすくなるように簡易化されたゲームをする。

(ア)軽くてやわらかいボールを片手や両手で操作したり、チームの連携プレーによる攻撃が成り立つように素早く場所を移動したりして、ネットをはさんだゲームができるようにする。

(イ)ボール操作についての制限を緩和したボールがつながりやすい状況の中で、相手が捕りにくいようなボールを打ち返すことができるようにする。

□単元計画構造図作成ツール手順

- 4 解説の例示等(具体の指導内容*1)の中から指導する内容を精選する。
- 第1学年で重点的に扱うもの
- 第2学年で重点的に扱うもの
- 第1学年でも第2学年でも重点的に扱うもの

□単元計画構造図作成ツール手順

- 5 指導内容を身に付けさせるための活動を考え、学習活動ゾーンを作成する。

□単元計画構造図作成ツール手順

- 6 重点的に指導する時間を設定する。
- 指導の順序性を考える。
 - 基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
 - 習得した知識・技能を活用して課題を解決するために思考・判断・表現する。

□単元計画構造図作成ツール手順

7 重点的に評価する時間を設定する。

(1) 評価の時期

- 技能と態度の2つの観点については、技能の獲得や態度の育成等に一定の学習機会が必要となることから、指導後に一定の学習期間を設ける。

□単元計画構造図作成ツール手順

7 重点的に評価する時間を設定する。

(2) 評価の方法

- 技能と態度は主に観察で、知識、思考・判断は主には学習カードの記述された内容から評価する。
 - **青** : 観察で評価するもの
 - **赤** : 学習カードの記述内容で評価するもの

□単元計画構造図作成ツール手順

8 時間ごとに(縦に)見て、指導と評価が活動とリンクしているか、指導と評価が実現可能かを確認する。

- 指導と評価が活動とリンクしているか
 - 1時間に指導可能か
 - 1時間に評価可能か
- ⇒ 観察で評価するのは1時間に1つにする

□単元計画構造図作成ツール手順

9 単元全体を見て、教えるべき内容(「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」)のバランスは良いか、確認する。

縦

10 単元全体を見て、評価規準及び指導する時期、評価する時期は適切かどうか確認する。

横

単元計画の構造図に関するアンケート

平成24年8月2日 10年経験者研修

体育センター 研修指導班

現在体育センターでは、研修で活用する単元計画の構造図についての研究に取り組んでいます。アンケートに御協力ください。

1 本日研修で活用した「単元計画の構造図」について、次の中からもっともあてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。

ア 初めて見た イ 知っていた ウ 作成したことがあった エ その他()

2 次の「単元計画の構造図」の作成についての各問いについて、もっともあてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。

(1) 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。

ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない

(2) 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。

ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない

(3) 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。

ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない

(4) 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。

ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない

(5) 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。

ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない

3 パソコン(エクセル)による「単元計画の構造図」の作成作業(操作)について、感想を記載してください。

4 研修をとおして感じた「単元計画の構造図」作成の長所(役だつと思う点など)と短所を記載してください。

<長所>

<短所>

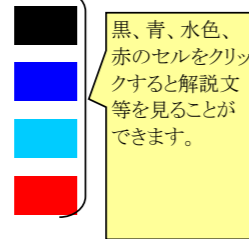
5 その他、単元計画の構造図についての感想を自由に記載してください。

御協力、ありがとうございました。

中学10年研アンケート調査の結果

| no. | 1 | 2 | | | | | 3 | 4 | | 5 |
|-----|--|---|-----------------------------|--------------------------|---------------------------------|---|--|--|---|-------------------------------|
| | | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | | 長所 | 短所 | |
| | 「単元計画の構造図」について、次の中からもっともあてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。 | (1)学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。 | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。 | 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。 | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。 | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。 | パソコン(エクセル)による「単元計画の構造図」の作成作業(操作)について、感想を記載してください。 | 研修をとおして感じた「単元計画の構造図」作成の長所(役だつと思う点など)と短所を記載してください。 | その他、単元計画の構造図についての感想を自由に記載してください。 | |
| | 1 初めて見た 2 知っていた 3 作成したことがあった 4 その他() | 1 思う 2 どちらかというと思う 3 どちらかかというと思わない 4 思わない | | | | | | 長所 | 短所 | |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 率直に良いものだなと思いました。文字数が多い関係で難しいと思いますが、画面上で一目ですべて見えるとなお良いと思いました。 | 学習指導要領の趣旨がわかりやすく、指導すべき内容が整理できる。指導計画と評価計画がしっかり関連づけて作成することができた。 | | 完成したら配布していただきたいと思いました。 |
| 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | やる内容をしばって行うことができ、大変参考となりました。 | 指導と評価の1本化としてみとることができる。 | ポイントを理解してやらないと、絵にかいたもちとなってしまう。 | わかりやすい説明で講義していただきありがとうございました。 |
| 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 見本(サンプル)があったので取り組めたが、なかった場合は難しいと感じた。 | 単元を全体的に見渡せる。 | 作成時間に労力を要する。 | |
| 4 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | とても見やすく、授業の計画が立てやすい。 | 変更があったときも、それを見て修正できる。 | 全体を見るのに疲れる。 | すべての種目の構造図がほしい。 |
| 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 評価の際にあいまいな部分がなくなり、クリアであるということ、生徒にも明確になるので、生徒の目標もはっきりしやすいと思います。 | 実際の授業の中でこれだけのことができるかが不安です。(でもやらなければいけないのは理解しています) | |

対象：中学校第1学年



授業者：

県中体連学習会で活用したツール (フォーマット)

| 解説 | 指導内容の概要 | 全文クリック | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 評価の中心となる時間 | 評価規準例 | | |
|---|---------|------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------|----------------|---|---|---|---|---|---|---|----|--|--|--|--|--|--|--|------------|-------|--|--|
| 学習指導要領 <指導内容> | 解説 | 具体的指導内容 *1 | 基となる知識・具 体的知識 *2 | キーワード | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | | | | | | | | | | | |
| 技能 (1)次の運動につ いて、勝敗を競う 楽しさや喜びを 味わい、基本的 な技能や仲間と 連携した動きで ゲームが展開で きるようにする。 ネット型で は、ボールや用 具の操作と定位 置に戻るなどの 動きによって空 いた場所をめぐ る攻防を展開す ること。 態度 (2) 球技に積極 的に取り組むと もに、フェアなプ レイを守ろうと すること、分担し た役割を果たそう とすること、作戦な どについての話 合いに参加しよ うとすることなど や、健康・安全 に気を配ることが できるようにす る。 知識、思考・判 断 (3) 球技の特性 や成り立ち、技 術の名称や行い 方、関連して高 まる体力などを 理解し、課題に 応じた運動の取 組み方を工夫す る。 | 技能 | ボール操作 | 【サーブでは、ボール の中心付近をとらえる】 | 1 | サーブ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【相手側のコートの空い た場所にボールを返 す】 | 2 | 空いた場所へ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【味方が操作しやすい 位置にボールをつなぐ】 | 3 | 味方が操作しやす | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【肩より高い位置から ボールを打ち込む】 | 4 | スパイク | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ボール ときの動 き | | 【相手の打球に備えた 準備姿勢をとる】 | 5 | 準備姿勢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【プレイを開始する ときは、各ポジション ごとの位置に戻る】 | 6 | ポジショニング | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【ボールを打ったり受け たりした後、ボールや 相手に正対する】 | 7 | ボールや相手 への正対 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 態度 | | 【積極的に取り組む】 | 8 | 積極的に取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【フェアなプレイを守 ろうとする】 | 9 | フェアプレイを | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【分担した役割を果 たそうとする】 | 10 | 分担した役割 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【話合いに参加しよ うとする】 | 11 | 話合いに参加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【「～など」の例、仲 間の学習を援助し ようとする】 | 12 | 仲間の学習を | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【健康・安全に気を 配る】 | 13 | 健康・安全に | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 知識、 思考・ 判断 | | 【球技の特性や成 り立ち】 | 14 | 球技の特性や | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【技術の名称や行 い方】 | 15 | 技術の名称や | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【関連して高まる 体力】 | 16 | 関連して高ま | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【「～など」の例、 試合の行い方】 | 17 | 試合の行い方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【技術を身に付け るための運動の 行い方を見付け る】 | | 運動の行い方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【自己やチームの 課題を見付け る】 | | 課題を見付け | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【課題に応じた練 習方法を選 ぶ】 | | 練習方法を選 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【役割に応じた協 力の仕方を 見付ける】 | | 協力の仕方を | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【安全上の留意 点を練習場面 や試合場面に 当てはめる】 | | 安全上の留意点 を各 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

内容の取り扱い (学習指導要領) オ「E球技」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからウまでをすべての生徒に履修させること。第3学年においては、アからウまでの中から二を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、ウの実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。

*1 技能と思考・判断については解説の例示を参考に記載し、態度と知識については、学習指導要領の内容を箇条書きにしてあります。

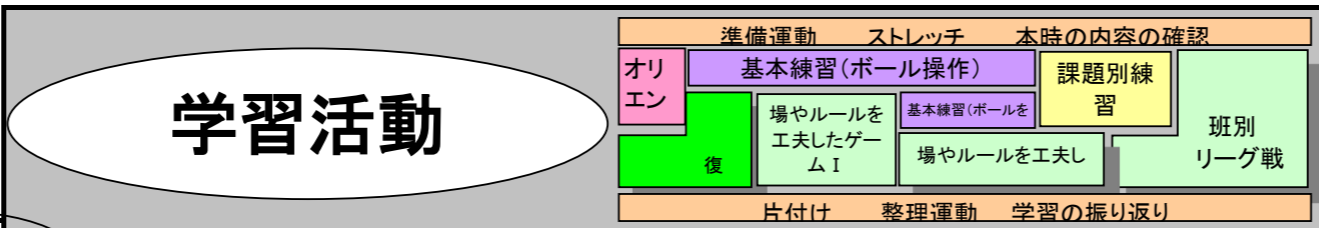
*2 技能については、平成19・20・21年度の体育センター研究報告書「体育学習における技能の系統に関する研究」、態度については学習指導要領解説の記載内容を参考に基となる知識として記載してあります。

知識については、学習指導要領解説に記載されている具体的知識について記載してあります。

対象：中学校第1学年
または第2学年



授業者：



県中体連学習会で活用したツール(補助資料)

Table with columns for '解説', '指導内容の概要', '全文クリック', '学習指導要領', '具体的指導内容', '基となる知識・具体的知識', 'キーワード', '1-10', '評価の中心となる時間', '評価規準例', and '解説'. Rows include '技能', '態度', and '知識、思考・判断'.

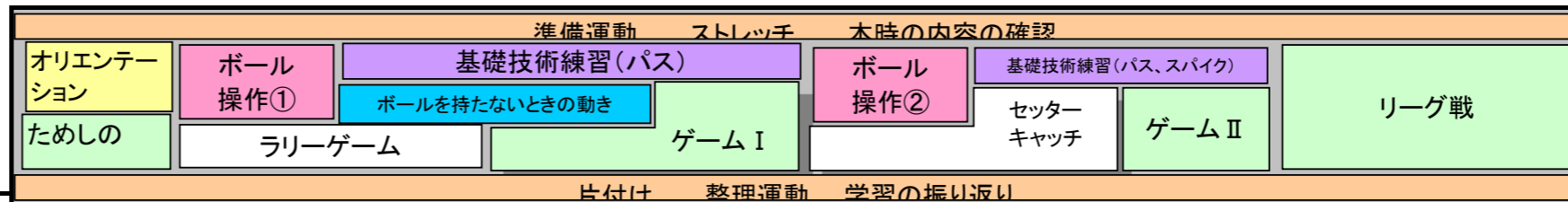
内容の取り扱い(学習指導要領) オ「E球技」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからウまでをすべての生徒に履修させること。第3学年においては、アからウまでの中から二を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、ウの実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。

*1 技能と思考・判断については解説の例示を参考に記載し、態度と知識については、学習指導要領の内容を箇条書きにしてあります。
*2 技能については、平成19・20・21年度の体育センター研究報告書「体育学習における技能の系統に関する研究」、態度については学習指導要領解説の記載内容を参考に基となる知識として記載してあります。知識については、学習指導要領解説に記載されている具体的知識について記載してあります。

対象：中学校第1学年

黒、青、水色、赤のセルをクリックすると解説文等を見ることが

授業者：



県中体連学習会で活用したツール(サンプル)

| 解説 | 指導内容の概要 | 全文クリック | 学習指導要領<指導内容> | 解説 | 具体的指導内容 *1 | 基となる知識・具体的知識 *2 | キーワード | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 評価の中心となる時間 | 評価規準例 | | | | |
|--|--|-------------------|-------------------------------|---|------------|-----------------|-----------|---------|---|---|---|---|---|---|------|---|----|------------|-------|-----|---|----|--|
| 技能 (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。 イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。 | 技能 全文クリック ↓ ボールを操作するときの動き | ボール操作 | 【サーブでは、ボールの中心付近をとらえる】 | 1 | サーブ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【相手側のコートに空いた場所にボールを返す】 | 2 | 空いた場所へ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【味方が操作しやすい位置にボールをつなぐ】 | 3 | 味方が操作しやすい | | 味方が操作しやすい | | | | | | | | | | | | | | 3 | | |
| | | | 【肩より高い位置からボールを打ち込む】 | 4 | スパイク | | | | | | | | | | スパイク | | | | | | 7 | | |
| | | | 【相手の打球に備えた準備姿勢をとる】 | 5 | 準備姿勢 | | | 準備姿勢 | | | | | | | | | | | | | 4 | | |
| | | | 【プレイを開始するときは、各ポジションごとの定位置に戻る】 | 6 | ポジショニング | | | ポジショニング | | | | | | | | | | | | | 5 | | |
| | | | 【ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対する】 | 7 | ボールや相手への正対 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 態度 (2) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 | 態度 全文クリック ↓ | ボール操作 | 【積極的に取り組む】 | 8 | 積極的に取り組 | | | | | | | | | | | | | | 8 | | | |
| | | | | 【フェアなプレイを守ろうとする】 | 9 | フェアプレイを | | | | | | | | | | | | | | | 9 | | |
| | | | | 【分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。】 | 10 | 分担した役割 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。】 | 11 | 話し合いに参加 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【「～など」の例、仲間の学習を援助しようとする】 | 12 | 仲間の学習を | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 【健康・安全に気を配る】 | 13 | 健康・安全に気 | | 健康・安全に | | | | | | | | | | | | | | 10 | |
| 知識、思考・判断 (3) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 | 知識、思考・判断 全文クリック ↓ | ボール操作 | 【球技の特性や成り立ち】 | 14 | 球技の特性や | 球技の特性や成 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| | | | 【技術の名称や行い方】 | 15 | 技術の名称や | 技術の名称や行 | | | | | | | | | | | | | | 1・6 | | | |
| | | | 【関連して高まる体力】 | 16 | 関連して高まる | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | |
| | | | 【「～など」の例、試合の行い方】 | 17 | 試合の行い方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【技術を身に付けるための運動の行い方を見付ける】 | | 運動の行い方 | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | |
| | | | 【自己やチームの課題を見付ける】 | | 課題を見付ける | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | | |
| | | | 【課題に応じた練習方法を選ぶ】 | | 練習方法を選 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【役割に応じた協力の仕方を見付ける】 | | 協力の仕方を見 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

内容の取り扱い(学習指導要領) オ「E球技」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからウまでをすべての生徒に履修させること。第3学年においては、アからウまでの中から二を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、ウの実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。

*1 技能と思考・判断については解説の例示を参考に記載し、態度と知識については、学習指導要領の内容を箇条書きにしてあります。
*2 技能については、平成19・20・21年度の体育センター研究報告書「体育学習における技能の系統に関する研究」、態度については学習指導要領解説の記載内容を参考に基となる知識として記載してあります。知識については、学習指導要領解説に記載されている具体的知識について記載してあります。

神奈川県中学校体育連盟研究部 第2回学習会

「ツール※による単元計画構造図の作成」

神奈川県立体育センター

○ ツールによる単元計画構造図作成の手順

- 1 学習指導要領の内容（「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」）を読む。
- 2 学習指導要領解説の内容を例示を中心に読む。
- 3 生徒の実態を想定する。

（単元の目標及び評価規準を設定する。）

- 4 解説の例示等（ツール具体の指導内容※1）の中から指導する内容を精選する。

- 第1学年で重点的に扱うもの
- 第2学年で重点的に扱うもの
- 第1学年でも第2学年でも重点的に扱うもの

- 5 指導内容を身に付けさせるための活動を考え、学習活動ゾーンを作成する。

- 6 重点的に指導する時間を設定する。

- 指導の順序性を考える。
 - ・基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
 - ・習得した知識・技能を活用して課題を解決するために思考・判断・表現する。



- 7 重点的に評価する時間を設定する。

(1) 評価の時期

- 技能と態度の2つの観点については、技能の獲得や態度の育成等に一定の学習機会が必要となることから、指導後に一定の学習期間を設ける。

(2) 評価の方法

- 技能と態度は主に観察で、知識、思考・判断は主には学習カードの記述された内容から評価する。

● 主に観察で評価するもの ● 主に学習カードの記述内容で評価するもの 

- 8 時間ごとに（縦に）見て、指導と評価が活動とリンクしているか、指導と評価が実現可能かを確認する。

● 指導と評価が活動とリンクしているか

● 1時間に指導可能か

● 1時間に評価可能か ⇒ 主に観察で評価する内容は1時間に1つにする

- 9 単元全体を見て、指導すべき内容（「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」）のバランスは良いか、確認する。

- 10 単元全体を見て、評価規準及び指導する時期、評価する時期は適切かどうか確認する。

※ 本ツールは現在検討中のものであり、今後変更されることがあります。

問合せ先 県立体育センター 研修指導班

電話：(0466)81-2572

Email: taiiku-c.kensyu@pref.kanagawa.jp

単元計画の構造図に関するアンケート

平成24年10月2日

神奈川県中学校体育連盟研究部第2回学習会

現在神奈川県立体育センターでは、研修で活用する単元計画の構造図についての研究に取り組んでいます。アンケートに御協力ください。

1 「単元計画の構造図」について、次の中からもっともあてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。

ア 初めて見た イ 知っていた ウ 作成したことがあった エ その他()

2 次の「ツールによる単元計画の構造図の作成」についての各問いについて、もっともあてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。

(1) 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。

ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない

(2) 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。

ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない

(3) 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。

ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない

(4) 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。

ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない

(5) 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。

ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない

3 研修をとおして感じた「ツールによる単元計画の構造図の作成」の**長所**（役だつと思う点など）と**短所**を記載してください。

<長所>

<短所>

4 その他、単元計画の構造図についての感想を自由に記載してください。

御協力、ありがとうございました。

神奈川県立体育センター 研修指導班

県中体連学習会アンケート調査の結果

| no. | 1 | 2 | | | | | 3 | | 4 |
|-----|--|--|-----------------------------|--------------------------|---------------------------------|---|--|--|--|
| | | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | 長所 | 短所 | |
| | 「単元計画の構造図」について、次の中からもっともあてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。 | 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。 | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。 | 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。 | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。 | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。 | 研修をとおして感じた「単元計画の構造図」作成の長所(役だつと思う点など)と短所を記載してください。 | | その他、単元計画の構造図についての感想を自由に記載してください。 |
| | 1 初めて見た 2 知っていた 3 作成したことがあった 4 その他() | 1 思う 2 どちらかと思う 3 どちらかと思うとわない 4 思わない | | | | | 長所 | 短所 | |
| 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 精選がしやすい。指導したものを評価するという大原則を再認識できる。 | キーワードは適切に例示から抜き出されているか 技:ステップ インパクトがないのはなぜ? | |
| 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 単元の全体を見通した計画が立てられる。技能以外の評価の時間を整理でき、分散することができる。 | 技能の他の項目は、毎回の授業で見とることが多いので、活用しにくそう。 | エクセルのデータがほしい。 |
| 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | これまでの単元構造図よりはるかに見やすく分かりやすい。 | | |
| 4 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ツールにすることで簡素化され、非常に見やすく分かりやすい。データであるため、変更が生じた時にイメージを作り直しやすい。 | | ぜひ使ってみたい。 |
| 5 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 単元の全体像が見える。また、指導と評価の一体化がはかれる。 | 作成に時間がかかる。 | 昨年度のものより、とても身近に感じる事ができました。もどいたらすぐにPCで見たいと思います。 |
| 6 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 計画的に授業を進めることができる。 | 単元ごとに基本パターンを作るのに時間がかかりそう。また、自分で入力を忘れてしまうのではないかと不安。 | |
| 7 | 3 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 例えば積極的に取り組むには、毎時間評価しているので、どう書いたらよいか、分からないです。課題をみつけないのも毎時間。でも自分の考えが分かりやすく見えました。 | | |
| 8 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 作成の仕方が良くわかった。 | 年度の途中だと作成しにくい。(授業に間に合わない)年間計画で作成した後すぐに作るかな。 | USBに入れた物を県全部でひとまとめにし(集約)、いつでも、みんなが見れる様に(PC上で)県研究部で管理できたら、先生方の力が向上するのではないかと。 |
| 9 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 指導内容が一目で分かる。 | | |
| 10 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | その時間(2時間目とか)に意識して評価、指導することがおそろかになりそう。 | 左記にとられると、教時間継続して指導、評価することがおそろかになりそう。 | 個々の評価(40人分)をやろうとすると無理がある。毎時間、教師は名簿を持って巡回し、チェックしなければならぬと勘違いする教師はいないだろうか。評価の仕方も教えないと頭の固い教師が増えると思う。 |
| 11 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 良いと思いました。 | | 頭の中を整理するためのツールとしては、良いと思う。やらなきゃいけないとなると負担だが... |

県中体連学習会アンケート調査の結果

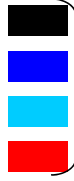
| no. | 1 | 2 | | | | | 3 | | 4 |
|-----|--|--|-----------------------------|--------------------------|---------------------------------|---|--|--|--|
| | | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | 長所 | 短所 | |
| | 「単元計画の構造図」について、次の中からもっともあてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。 | 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。 | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。 | 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。 | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。 | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。 | | | 研修をとおして感じた「単元計画の構造図」作成の長所(役だつと思う点など)と短所を記載してください。 |
| | 1 初めて見た 2 知っていた 3 作成したことがあった 4 その他() | 1 思う 2 どちらかというと思う 3 どちらかというと思わない 4 思わない | | | | | 長所 | 短所 | |
| 12 | 3 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 指導内容のもれがなくなる・指導するキーワードを意識することで、具体的な生徒の姿も想像しやすい。 | 指導内容、基となる知識、具体の知識など打ち込む量が多すぎる。 | 労力がとてもかかると感じた。 |
| 13 | 3 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 学習指導要領を踏まえることができる。 | | ラフスケッチを目で見て確認することで、単元計画がとらえやすいと思いました。 |
| 14 | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 | 2 | 全てにおいて、行うべき時期(時間)が明確になる。 | 作成に時間がかかる。 | |
| 15 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | 10時間構成の見通しが立ち、指導方針が明確になる。 | 単元計画の通りに、教え込もうとしてしまい、柔軟な対応も見失う危険性・・・ | |
| 16 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 全体を見通した計画が立てられる。 | | 「単元計画の構造図作成ツール」のエクセルが欲しいです。 |
| 17 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 構造図作成の過程で指導計画が整理できる。全て打ち込む(記入する)従来の形よりも事務作業の負担が圧倒的に軽減される。紙ベースにプリントアウトした時に、従来の形のものより見やすい＝実務的・・・授業を実際に展開している時期に迷いが出た時にも短い時間で再確認しやすい。 | | |
| 18 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | メールをしてぜひとも電子データをいただきたいと思った。 |
| 19 | 3 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | | | ありがとうございます。説明も分かりやすく、なかなか実践しようとは思えなかったのですが、今のツールを使えば時間も短縮できそうです。 |
| 20 | 3 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 先を見通した指導ができる。 | 作る時間がない(毎年、生徒の実態に合わせて作れない) | 昨年、研究部で作りましたが、少し楽になりそうですが、やはり時間がありません。 |
| 21 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | もれがなく指導することができる。 | 慣れるまで、作るのに時間がかかりそう。 | 初めて見ましたが、今後活用していこうと思いました。まだ、理解しきれていない部分もあるので実際使用してみようと思います。 |
| 22 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 指導書の内容がはじめから入っているなら、手がかからないし理解しやすいので、計画を立てやすい。単元全体のイメージがつかみやすい。 | 形にとらわれすぎないように(子どもの実態は常に変化する)注意したいと思いました。 | パソコンがみんなにあればよかった。担当になっている種目について、計画をたてられれば、今後につながるのよかったのではないかな。 |

県中体連学習会アンケート調査の結果

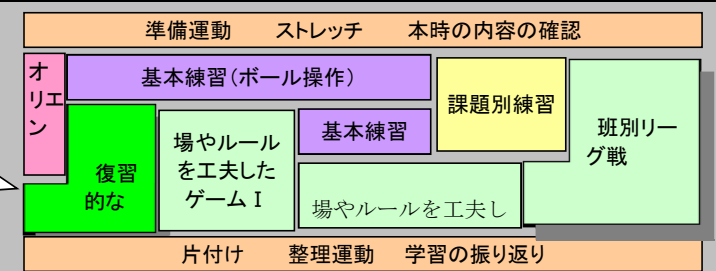
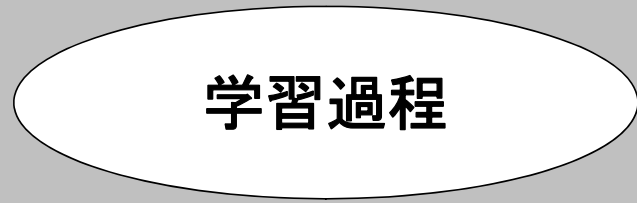
| no. | 1 | 2 | | | | | 3 | | 4 |
|-----|--|--|-----------------------------|--------------------------|---------------------------------|---|---|---------------------|---|
| | | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | 長所 | 短所 | |
| | 「単元計画の構造図」について、次の中からもっともあてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。 | 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。 | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。 | 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。 | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。 | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。 | 研修をとおして感じた「単元計画の構造図」作成の長所(役だつと思う点など)と短所を記載してください。 | | その他、単元計画の構造図についての感想を自由に記載してください。 |
| | 1 初めて見た 2 知っていた 3 作成したことがあった 4 その他() | 1 思う 2 どちらかと思う 3 どちらかと思うとしない 4 思わない | | | | | 長所 | 短所 | |
| 23 | 3 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 学習指導要領を常に意識することによって、読み込みができるので良いと思う。 | 態度、知・思・判の置き方が難しかった。 | 本日はありがとうございました。 |
| 24 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 単元の流れを自分の中で把握し、展開、指導しやすい。生徒への提示もでき、見通しがつきやすい。 | | すべての単元で出るのなら、今後活用していきたいと思った。 |
| 25 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 一目でいつ何をやるのかがわかる。計画的に授業ができる。 | | Aゾーンまでが出来上がっていると扱いやすいと思います。よろしく願います。 |
| 26 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 子供達に身につけさせること(内容)の整理ができると感じました。 | | |
| 27 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | | | |
| 28 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 昨年度単元構造図を作成して、PCの画面におさまらなかつたり、見づらかつたり大変な思いをした。実際に使用している訳ではないが、扱いやすく見やすい事に驚いた。単元全体を構想するには本当に役立つと思った。 | | 我々のために、使いやすく、見やすいようにして下さい。とてもありがたく思います。地区に戻り、紹介していきたいと思います。 |
| 29 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 作成しやすい。ひとめでわかる。1年でできないこと(やらないこと)2年でやるということがわかりやすい。 | | 以前やった構造図と比べると、簡易でわかりやすくよかった。又、指導要領から逸脱することなく全体をみまわせそうです。今後、この形をベースにして取り組んでいこうかな?と思いました。 |
| 30 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | エクセルでクリックするだけで指導要領の内容が出てくるのは、単元計画を考える上では、すごくスムーズに作業ができる。 | | |
| 31 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 作成できれば、指導する上でとても、明確になると思います。 | 作成するのに時間がかかる。 | |
| 32 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 大変便利で分かりやすかったです。ありがとうございました。 |
| 33 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 単元計画を再度見直すとともに評価をいつ、どの時間でみとるかなど改めて考えたり、確認する機会となりました。 | | |

対象：高校入学年次

授業者：



黒、青、水色、赤のセルをクリックすると解説文等を見ることができます。



高校初任研4日目で活用したツール(フォーマット)

| 解説 | 指導内容の概要 | 全文をクリック → | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 評価の中心となる時間 | 評価規準例 | | | | |
|--|--------------------|-----------------------------|------------------------------|---|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|------------|-------|--|--|--|--|
| 学習指導要領<指導内容> 技能 (1)次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。 | 技能 クリック ↓ | ボール操作 ↓ ボールを持たないときの動き | 【サーブでは、ボールをねらった場所に打つ】 | ① | サービス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【空いた場所やねらった場所に打ち返す】 | ② | 空いた場所やねらっ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【攻撃につながる高さや位置にボールを上げる】 | ③ | レシーブ・パス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【ネット付近でボールの侵入を防ぐ】 | ④ | ブロック | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【強い振りでネットより高い位置から打ち込む】 | ⑤ | スパイク | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【ポジションに応じてボールを操作する】 | ⑥ | ポジションに応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【空いている場所をカバーする】 | ⑦ | カバー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【フォーメーションに応じた位置に動く】 | ⑧ | フォーメーショ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 態度 (2)球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 | 態度 クリック ↓ | | 【自主的に取り組む】 | ① | 自主的に取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【フェアなプレイを大切にしようとする】 | ② | フェアプレイを大切に | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【自己の責任を果たそうとする】 | ③ | 自己の責任を | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【話合いに貢献しようとする】 | ④ | 話合いに貢献する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【「～など」の例、互いに助け合い教え合おうとする】 | ⑤ | 助け合い教え | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【健康・安全を確保する】 | ⑥ | 健康・安全を | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 知識、思考・判断 (3)技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 | 知識、思考・判断 クリック ↓ | | 【技術などの名称や行い方】 | ① | 技術などの名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【体力の高め方】 | ② | 体力の高め方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【課題解決の方法】 | ③ | 課題解決の方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【競技会の仕方】 | ④ | 競技会の仕方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【「～など」の例、審判の方法】 | ⑤ | 審判の方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶ】 | ① | 作戦や戦術を | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【仲間に、課題や練習方法の選択について指摘する】 | ② | 課題や練習方法の指摘 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【合意を形成するための適切なかかわり方を見付ける】 | ③ | 合意形成のかか | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【体調に応じて適切な練習方法を選ぶ】 | ④ | 体調に応じた練 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見付ける】 | ⑤ | 継続のかかわりを見付ける | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

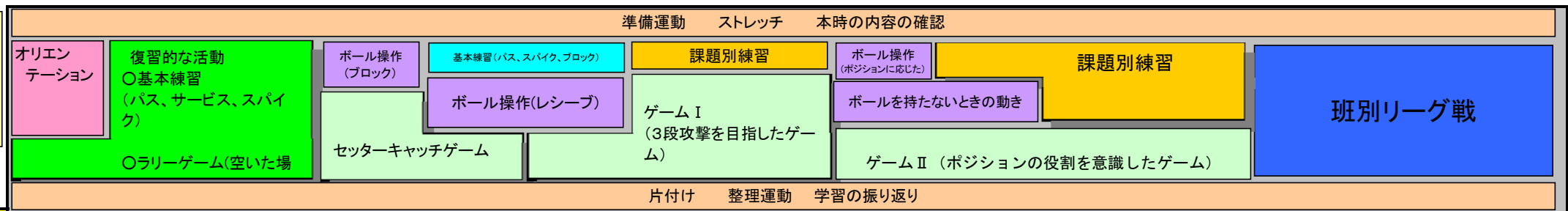
内容の取扱い(学習指導要領) オ「E球技」の(1)の運動については、入学年次においては、アからウまでの中から二を、その次の年次以降においては、アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。

*1 技能と思考・判断については解説の例示を参考に記載し、態度と知識については、学習指導要領の内容を箇条書きにしてあります。
 *2 技能については、平成19・20・21年度の体育センター研究報告書「体育学習における技能の系統に関する研究」、態度については学習指導要領解説の記載内容を参考に基となる知識として記載してあります。知識については、学習指導要領解説に記載されている**具体の知識**について記載してあります。

対象：高校入学年次

授業者：

黒、青、水色、赤のセルをクリックすると解説文等を見ることができます。



高校初任研
4日目で活用
したツール
(サンプル)

| 解説 | 指導内容の概要 | 全文クリック → | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 評価の中心となる時間 | 評価規準例 | | | |
|--|-------------------------------|------------------------|----|---------------------------|---------|------|---------|------|---------|---------|--------|--------|---------|------------|----------|----|----|------------|-------|--|--|--|
| 技能 (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開すること。 | 技能 クリック ↓ | 【サービスでは、ボールをねらった場所に打つ】 | 1 | サービス | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 2 | 空いた場所やねらった場所に打ち返す | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 3 | 【攻撃につながる高さや位置にボールを上げる】 | | | | | レシーブ・パス | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 4 | 【ネット付近でボールの侵入を防ぐ】 | | | | ブロック | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 5 | 【強い振りでネットより高い位置から打ち込む】 | | スパイク | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 6 | 【ポジションに応じてボールを操作する】 | | | | | | | | | | ポジションに応じ | | | | | | | | |
| | | | 7 | 【空いている場所をカバーする】 | | カバー | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 8 | 【フォーメーションに応じた位置に動く】 | | | | | | | | | | | フォーメーション | | | | | | | |
| 態度 (2) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする。役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする。健康・安全を確保できるようにする。 | 態度 クリック ↓ | 【自主的に取り組む】 | 9 | | 自主的に取り | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 10 | フェアなプレイを大切にしようとする | フェアプレイを | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 11 | 【自己の責任を果たそうとする】 | 自己の責任を | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 12 | 【話し合いに貢献しようとする】 | | | 話し合いに貢献 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 13 | 【「～など」の例、互いに助け合い教え合おうとする】 | | | | | | | 助け合い教え | | | | | | | | | | | |
| 14 | 【健康・安全を確保する】 | 健康・安全を確 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 知識、思考・判断 (3) 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 | 知識、 思考・ 判断 クリック ↓ | 【技術などの名称や行い方】 | 15 | | | | 技術などの名 | | | | | 技術などの名 | | | | | | | | | | |
| | | | 16 | 【体力の高め方】 | 体力の高め方 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 17 | 【課題解決の方法】 | 課題解決の方 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 18 | 【競技会の仕方】 | 競技会の仕方 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 19 | 【「～など」の例、審判の方法】 | | | 審判の方法 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 20 | 【チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶ】 | 作戦や戦術を | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 21 | 【仲間に、課題や練習方法の選択について指摘する】 | | | | | | | | | | 課題や練習方法の指摘 | | | | | | | | |
| 22 | 【合意を形成するための適切なかわり方を見付ける】 | | | | | | | | | | | | 合意形成のかか | | | | | | | | | |
| 23 | 【体調に応じて適切な練習方法を選ぶ】 | | | | | | | | | 体調に応じた練 | | | | | | | | | | | | |
| 24 | 【継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付ける】 | 継続のかかわ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

内容の取扱い (学習指導要領) オ「E球技」の(1)の運動については、入学年次においては、アからウまでの中から二を、その次の年次以降においては、アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。

*1 技能と思考・判断については解説の例示を参考に記載し、態度と知識については、学習指導要領の内容を箇条書きにしてあります。
*2 技能については、平成19・20・21年度の体育センター研究報告書「体育学習における技能の系統に関する研究」、態度については学習指導要領解説の記載内容を参考に基となる知識として記載してあります。知識については、学習指導要領解説に記載されている具体的な知識について記載してあります。

単元計画の構造図に関するアンケート

平成24年10月18日
高等学校初任者研修講座
体育センター 研修指導班

現在体育センターでは、研修で活用する単元計画の構造図についての研究に取り組んでいます。
アンケートに御協力ください。

- 1 次の「単元計画の構造図」の作成についての各問いについて、もっともあてはまるものを1つ
選び、記号に○をつけてください。
- (1) 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。
ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない
- (2) 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。
ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない
- (3) 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。
ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない
- (4) 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。
ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない
- (5) 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容について
の理解が深まりましたか。
ア 思う イ どちらかと思う ウ どちらかと思わない エ 思わない

- 2 パソコン(エクセル)による「単元計画の構造図」の作成作業(操作)について、感想を記載
してください。

- 3 指導内容の面から単元全体をイメージするために、単元計画の構造図を作成する場合、パソコ
ン(エクセル)による作業と手作業(5月)では、どちらが良いと思いますか。あてはまるもの
を1つ選び、記号に○をつけてください。また、その理由も記載してください。
ア パソコン(エクセル)による作業 イ 手作業 ウ どちらとも言えない

<理由>

- 4 その他、単元計画の構造図についての感想を自由に記載してください。

高校初任研4日目アンケート調査の結果

| no. | 1 | | | | | 2 | 3 | | 4 |
|-----|--|-----------------------------|--------------------------|---------------------------------|---|---|---|--|---|
| | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | | | | |
| | 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。 | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。 | 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。 | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。 | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。 | パソコン(エクセル)による「単元計画の構造図」の作成作業(操作)について、感想を記載してください。 | 指導内容の面から単元全体をイメージするために、単元計画の構造図を作成する場合、パソコン(エクセル)による作業と手作業(5月)では、どちらが良いと思いますか。あてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。また、その理由も記載してください。 | その他、単元計画の構造図についての感想を自由に記載してください。 | |
| | 1 思う 2 どちらかというと思う 3 どちらかというと思わない 4 思わない | | | | | | 1 パソコン(エクセル)による作業 2 手作業 3 どちらとも言えない | 理由 | |
| 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | ペーパーレスで全体を見ることも重要だと思う。 | 3 | 手作業でイメージをつくり、そこからパソコンで清書したほうが無駄がないと思う。パソコンだと画面の制限があって、全体が見にくい。 | |
| 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 一目で分かるので作成しやすい | 1 | 紙でも作業できるが、バラバラになってしまう。その点、PCだと安定して作業できるし、何度も変更できる。 | |
| 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 図形が使いにくかったが、他はよかった。 | 1 | やりやすい | |
| 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 簡単に移動をしたり、大きさを変更できて、自分の頭の中でイメージをふくらませやすかった。 | 1 | 操作性が高いこと | 今回の単元計画を採用されて早めの段階で研修実施してもらえると研究授業をするときにも考えやすい。 |
| 5 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | | 1 | 処理が簡単で、ペーパーベースだと飛んでいってしまったりして不便。 | |
| 6 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 難しい。理解するまでが時間がかかります。実際の授業は、その日に変わる可能性があるため、そのパターンも作れば、効率がよいと思う。 | 1 | 自分の吐息で飛ばない。保存ができる。 | |
| 7 | 2 | 2 | 3 | 3 | 2 | まだ、指導要領などを理解していないので、すごく苦戦しました。 | 1 | | |
| 8 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 元データがあれば、全体が見れるので良いと思う。 | 1 | 簡単に訂正ができるので良い。 | |
| 9 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 使いやすかった。 | 1 | 直したりするのが便利。 | |
| 10 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 新しくエクセルの使い方を学ぶことができました。 | 1 | 整理しやすい | |

高校初任研4日目アンケート調査の結果

| no. | 1 | | | | | 2 | 3 | | 4 |
|-----|--|-----------------------------|---------------------------|---------------------------------|---|---|---|---|--|
| | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | | | | |
| | 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。 | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。 | 指導と評価の時期を考慮する方法を理解できましたか。 | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。 | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。 | パソコン(エクセル)による「単元計画の構造図」の作成作業(操作)について、感想を記載してください。 | 指導内容の面から単元全体をイメージするために、単元計画の構造図を作成する場合、パソコン(エクセル)による作業と手作業(5月)では、どちらが良いと思いますか。あてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。また、その理由も記載してください。 | その他、単元計画の構造図についての感想を自由に記載してください。 | |
| | 1 思う 2 どちらかというと思う 3 どちらかというと思わない 4 思わない | | | | | | 1 パソコン(エクセル)による作業 2 手作業 3 どちらとも言えない | 理由 | |
| 11 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 集中して取り組むことができたので、紙ベースよりもパソコン上での作業の法が良いと感じた。 | 1 | パソコンの方が集中して取り組めるため。 | 今後もよりよい授業のために、できるかぎりの範囲で行っていきたいと感じた。 |
| 12 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | パソコン・操作方法をもう少し理解しなければならぬと感じました。 | 1 | パソコン技能の向上にもつながりますし、効率がよいと思います。 | |
| 13 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 紙と比べ机上も散らかることがなく、また色も自由に使える非常に見やすく使いやすい。データとして残せるので、今後修正していきながら、より良い授業づくりの役に立つ。 | 1 | 紙と比べ机上も散らかることがなく、また色も自由に使える非常に見やすく使いやすい。データとして残せるので、今後修正していきながら、より良い授業づくりの役に立つ。 | 指導する側が非常にわかりやすくまとめることができ、学習のねらいをはっきりとした指導ができる。 |
| 14 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 操作しやすい | 1 | 次の作業に進みやすいため | |
| 15 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 入力データがあるとまとめやすく、学校でもこのような方法で、取り組みたい。 | 1 | 理解しやすい | |
| 16 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 前回の付せんで作業するよりも、ズムーズに行えた。 | 1 | 全体のバランスの調整がしやすい。 | 単元計画を作成するにあたり、活用の幅が大きい。 |
| 17 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 変更がしやすく、見やすかった。 | 指導の流れを考えて計画しやすかった。 |
| 18 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | | 1 | シートに移動がスムーズ。訂正できる。 | |
| 19 | 2 | 2 | 1 | 4 | 1 | 手作業よりははるかに効率が良いと感じた。 | 3 | 手作業だからこそその分わかりやすさ、良さもあると思う。 | |
| 20 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 難しかったです。 | 1 | やりなおしなどが簡単であるから。 | 柔軟に対応できないといけなうと感じました。 |

高校初任研4日目アンケート調査の結果

| no. | 1 | | | | | 2 | 3 | | 4 |
|-----|--|-----------------------------|--------------------------|---------------------------------|---|---|---|--|--|
| | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | | | | |
| | 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解できましたか。 | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。 | 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。 | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。 | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。 | パソコン(エクセル)による「単元計画の構造図」の作成作業(操作)について、感想を記載してください。 | 指導内容の面から単元全体をイメージするために、単元計画の構造図を作成する場合、パソコン(エクセル)による作業と手作業(5月)では、どちらが良いと思いますか。あてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。また、その理由も記載してください。 | その他、単元計画の構造図についての感想を自由に記載してください。 | |
| | 1 思う 2 どちらかというと思う 3 どちらかというと思わない 4 思わない | | | | | | 1 パソコン(エクセル)による作業 2 手作業 3 どちらとも言えない | 理由 | |
| 21 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 非常に便利です!! もっと学校現場に導入すべき。ただ、忙しい先生方には難しいですよね... | 1 | 学習指導要領の内容も含めて、一度作ってしまえば全体や前回のものがよく見えるし、作業しやすいし、改善しやすいです。 | 全ての単元において、このように取り組みたいと思いますが、皆さん時間がないのが実情だと思います。例えば、学習指導要領の中身が既に入力されているもの(本日の書式)を、自由にDLできれば、だいぶ手間が省けると思います。 |
| 22 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 | 手書きよりは便利になったが、全体の構想などはつかみ辛かった。 | 3 | 手書きよりは便利になったが、全体の構想などはつかみ辛かった。 | |
| 23 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 角がへこんでいる四角形が操作しにくかった。あとはやりやすかったです。 | 1 | コピーできるので。 | 難しいですが、やっているうちに理解出来てくるので楽しいです。 |
| 24 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 作業時間が長く、もっと研修(講義など)をしてほしかった。 | 2 | イメージがわかりやすく、簡単に行える。 | |
| 25 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | | 1 | 何度も変更できるため。 | とても時間がかかりました。 |
| 26 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 指導と評価の一体化がしっかりできる。 | 1 | とてもわかりやすい。また修正しやすい。 | 今後も学校現場で活用していきたい。 |
| 27 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | | 1 | 修正がしやすいので良いと思います。 | |
| 28 | 2 | 2 | 2 | 1 | 3 | 前回の紙ベースより使いやすい! 今後も使用したい。 | 1 | 指導案作成につなげやすい。 | |
| 29 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 操作が難しかった。全体図を見れないので、やりにくかった。→印刷をした。 | 2 | パソコンは見づらい。 | 構造図は、少し難しい。出来ると、その後の作業はやりやすかった。 |
| 30 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | やりやすかった。 | 1 | 見やすい | |
| 31 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 大変だが見やすくて良いと思う。 | 3 | パソコンは見やすいが大変。手作業は、作業はシンプル。 | |
| 32 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 難しかったです。 | 3 | | 難しかったです。勉強になりました。 |

高校初任研4日目アンケート調査の結果

| no. | 1 | | | | | 2 | 3 | | 4 |
|-----|--|-----------------------------|--------------------------|---------------------------------|---|---|---|------------------------------------|----------------------------------|
| | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | | | | |
| | 学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解することができましたか。 | 指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できましたか。 | 指導と評価の時期を考える方法を理解できましたか。 | 指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できましたか。 | 作成をとおして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容についての理解が深まりましたか。 | パソコン(エクセル)による「単元計画の構造図」の作成作業(操作)について、感想を記載してください。 | 指導内容の面から単元全体をイメージするために、単元計画の構造図を作成する場合、パソコン(エクセル)による作業と手作業(5月)では、どちらが良いと思いますか。あてはまるものを1つ選び、記号に○をつけてください。また、その理由も記載してください。 | | その他、単元計画の構造図についての感想を自由に記載してください。 |
| | 1 思う 2 どちらかというと思う 3 どちらかというと思わない 4 思わない | | | | | | 1 パソコン(エクセル)による作業 2 手作業 3 どちらとも言えない | 理由 | |
| 33 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 手順を画面だけでなく、紙でも説明していただきたいと思いました。 | 1 | 手作業だと紙がとんでしまうから。 | |
| 34 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 図を構成するのが大変でした。 | 1 | きれいに作成することができるので。 | |
| 35 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 非常に便利だと思う。 | 1 | 紙だと散らばってしまったりするので | |
| 36 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | とても作業しやすく、考えも整理できた。 | 1 | 色々な考え方を試行してできるので、より考えを精選することができる。 | |
| 37 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 理解しやすいと思いました。 | 1 | 今後のパソコン社会への練習にもなるので。 | |
| 38 | 1 | 3 | 2 | 2 | 1 | とてもわかりやすく、一度作成すると、その後も使えてとても良いと思います。 | 1 | 紙だと固定しておけなかったなので、エクセルの方がシンプルに動かせた。 | |